

「鹿児島県観光調査」
～大河ドラマ効果と今後の課題・期待～

報告書

2017年8月



本調査は、大河ドラマ「西郷どん」放映、奄美世界遺産登録などの大型イベントを控え、更なる観光客の増加が期待される鹿児島県における観光の現状や課題を整理し、今後の鹿児島県の観光振興につなげていく事を目的に実施したものです。

なお調査にあたっては、鹿児島県の観光に関連する多くの事業者にヒアリング等で御協力を頂きながら作業を進め、報告書としてとりまとめました。

目次

I. 鹿児島観光の現状整理	1
1. 観光客数	
2. 宿泊施設・宿泊客数	
3. 観光消費額	
4. 人気の観光資源	
5. 交通アクセス	
II. 大型イベントの経済効果	28
1. 大河ドラマ「西郷どん」放映による経済効果試算	
2. 事業者の大型イベントへの認識と対応	
III. 今後の観光振興に向けた期待	37

要旨

鹿児島県は、本土から与論島まで南北 600km、高低差も大きく、世界自然遺産登録の屋久島や奄美大島など自然が豊富な県である。自然だけでなく世界文化遺産登録の観光資源も有し、畜産物をはじめとする食材も非常に豊富で、鹿児島県は観光資源が非常に充実している県といえる。

鹿児島県を訪れる観光客は近年増傾向にあり、平成 27 年には延べ人数（宿泊客＋日帰り客）で 2,200 万人を超えるお客様が鹿児島県を訪れている。日本人観光客ばかりでなく、外国人観光客も近年増加しており、街中でも良く見かけるようになってきた。

更に来年以降、大河ドラマ「西郷どん」放映、かごしま国体、奄美世界遺産登録などの大型イベントによる観光客の増加が期待されている。

大河ドラマ「西郷どん」放映による効果を、本調査において試算したところ、鹿児島県への集客効果は 112 万人、経済効果は 328 億円と試算された。



ただし、上記の経済効果は増加する観光客をしっかりと受け入れられる体制が構築されている前提であり、本調査を通じては、鹿児島県の観光における課題も明らかとなってきた。

宿泊施設の整備や二次交通を含めた交通・インフラ整備などは、中長期的な取り組みになるものと考えるが、鹿児島県の魅力を積極的に情報発信していく事は、短期的にも対応可能ではないだろうか。

観光関連の産業に従事する鹿児島県民が中心となり、鹿児島県の魅力を再確認し、積極的に情報発信していく事が必要である。

観光客に鹿児島県の魅力をしっかりと伝え、体験してもらい、ファンとなってもらおう。そして、リピーター・知人への紹介・情報発信へとつなげることで、大型イベント後も多くの観光客が訪れる観光の鹿児島県となっていく事を期待したい。

I. 鹿児島観光の現状整理

1. 観光客数

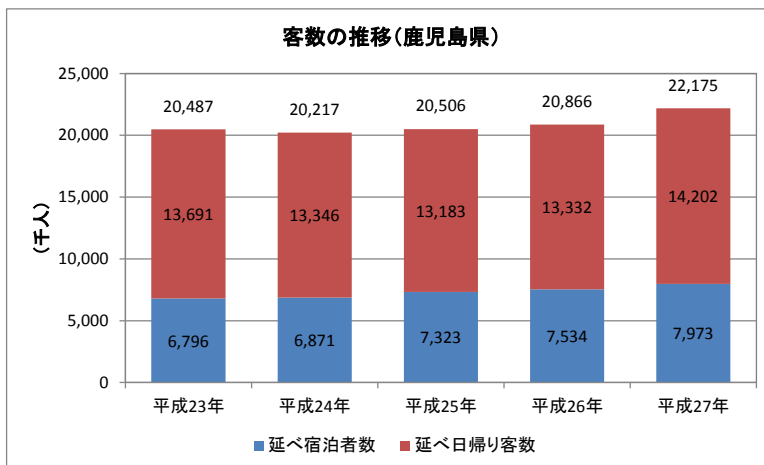
(1) 県全体

鹿児島県を訪れる客数は、延べ宿泊者数、延べ日帰り客数とも近年増加傾向にあり、平成27年の延べ宿泊者は7,973千人、延日帰り客数14,202千人、合計で22,175千人（前年比+6.3%）となっている。

日帰り・宿泊等の構成をみると、県内からの日帰り客が54.1%と最も多く、次いで県外からの宿泊客（24.9%）となっている。県外からの宿泊客を地域別にみると、九州からが31.2%と最も多く、次いで関東（24.3%）、関西（16.2%）となっている。

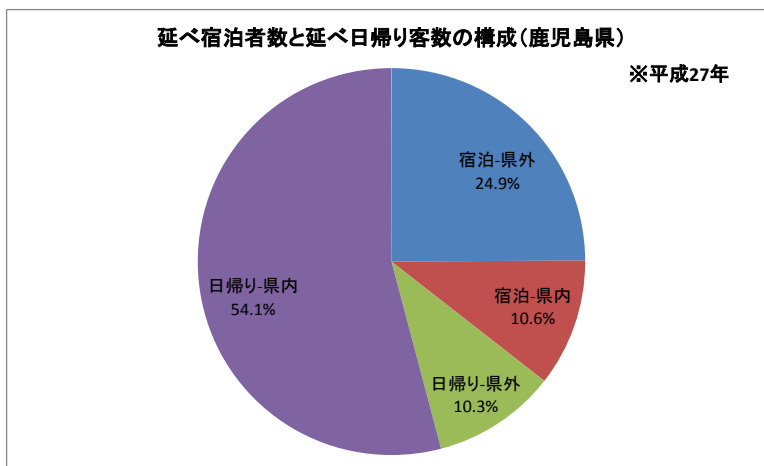
なお、観光客数は、観光庁の共通基準による観光入込客統計の実数でみても、延べ人数と同様に増加傾向にある。観光入込客数では、鹿児島県は（集計中等を除く）38都道府県の中で27番目に位置している。

図表 1 鹿児島県の客数の推移



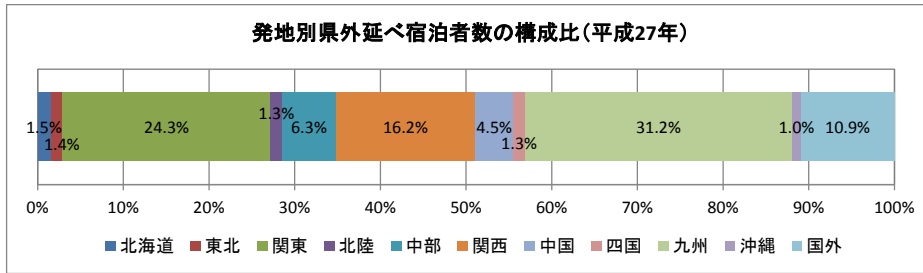
出典：鹿児島県観光交流局観光課「鹿児島県の観光の動向（平成27年）」より作成

図表 2 鹿児島県の延べ宿泊者数と延べ日帰り客数の構成



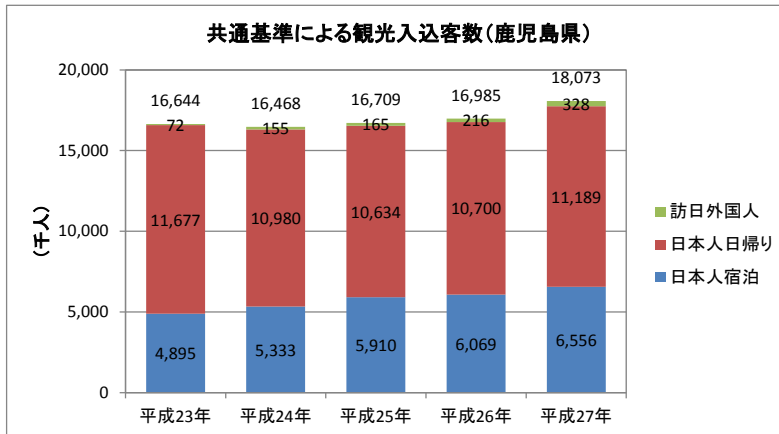
出典：鹿児島県観光交流局観光課「鹿児島県の観光の動向（平成27年）」より作成

図表 3 鹿児島県の県外からの宿泊者の地域別構成



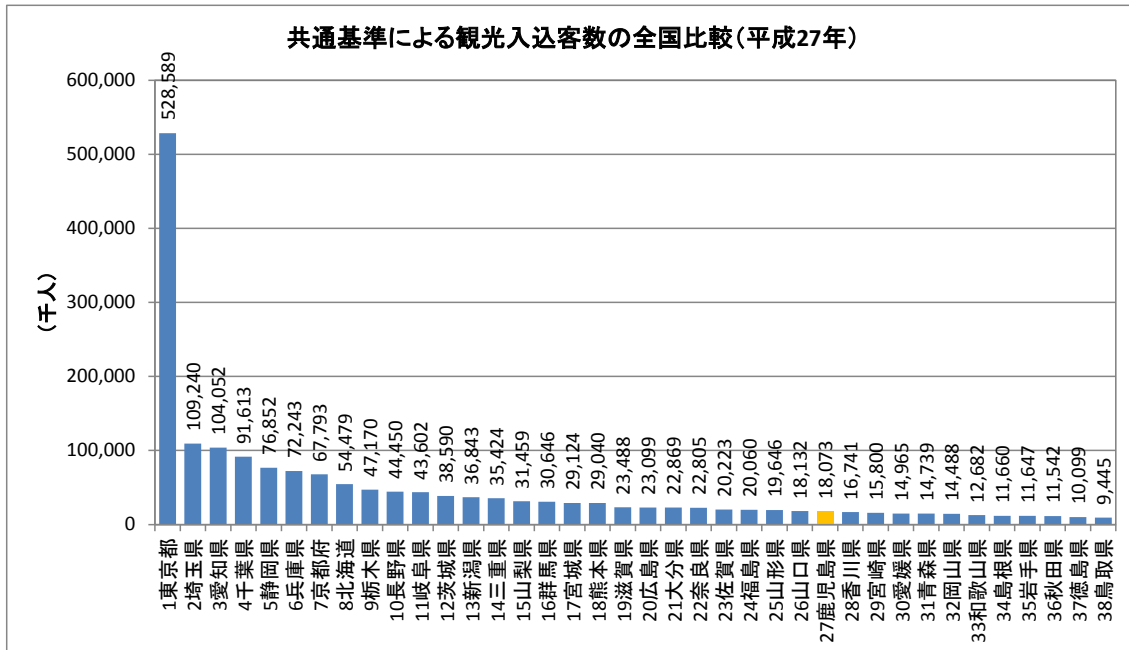
出典：鹿児島県観光交流局観光課「鹿児島県の観光の動向（平成27年）」より作成

図表 4 鹿児島県の観光入込客数（実数）



出典：観光庁「共通基準による観光入込客統計（平成23年～平成27年）」より作成

図表 5 観光入込客数（実数）の全国比較



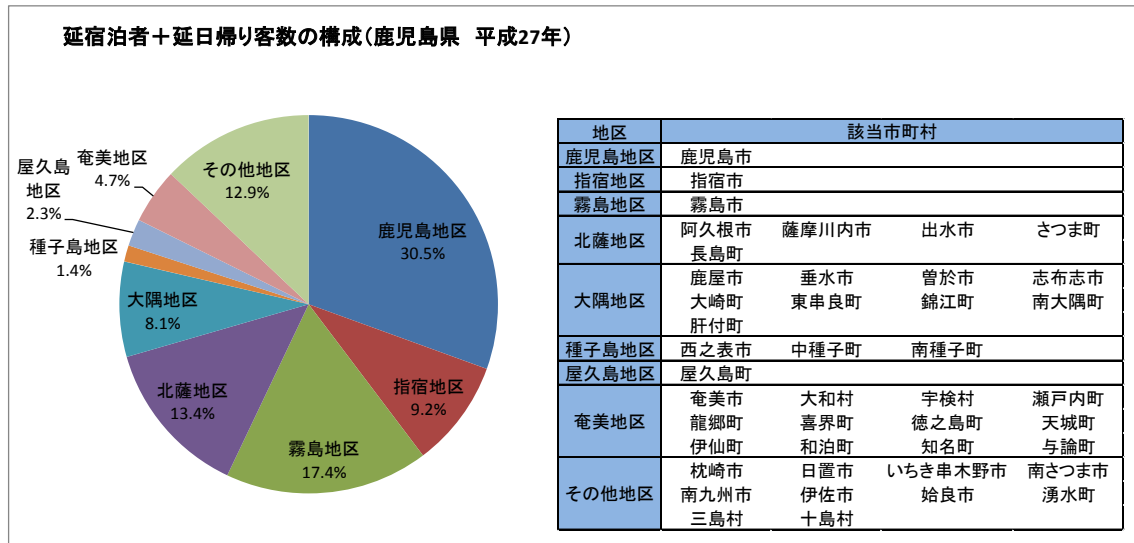
※集計済み38都道府県にて整理。神奈川県、富山県、石川県、福井県、高知県、福岡県、長崎県、沖縄県は集計中。大阪府は未導入。
出典：観光庁「共通基準による観光入込客統計（平成27年）」より作成

(2) 地域別

鹿児島県の客数（延べ宿泊者と延べ日帰り客の合計）は、鹿児島地区が30.5%と最も多く、次いで霧島地区（17.4%）、北薩地区（13.4%）、指宿地区（9.2%）、大隅地区（8.1%）となっている。

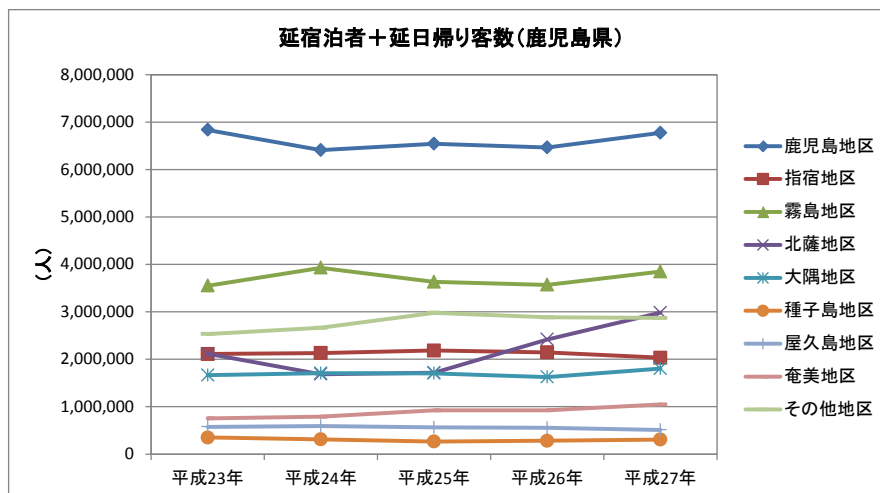
客数の離島エリアの占める割合は大きくないものの、奄美地区は近年増加傾向にあり、平成27年では4.7%を占めている。

図表 6 鹿児島県の客数の地区別構成



出典：鹿児島県観光交流局観光課「鹿児島県の観光の動向（平成27年）」より作成

図表 7 地区別客数の推移



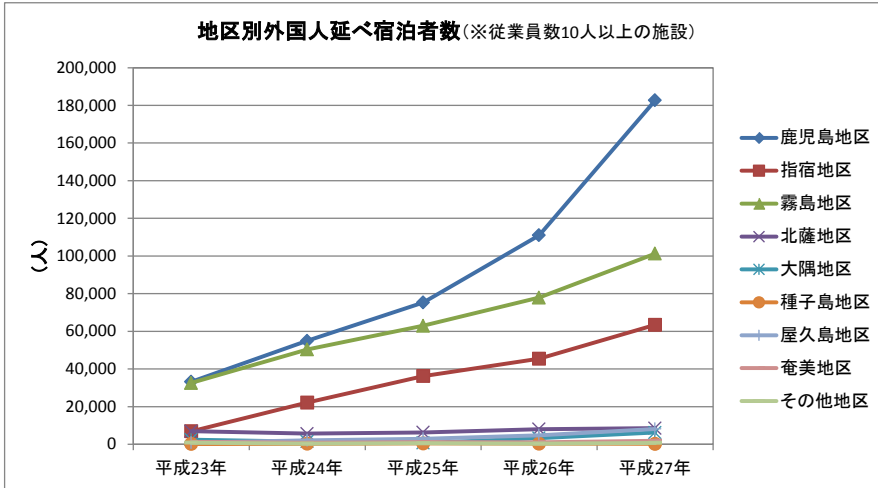
※調査年により地点が異なる場合あり（経年比較は参考）

出典：鹿児島県観光交流局観光課「鹿児島県の観光の動向（平成23年～平成27年）」より作成

訪日外国人の宿泊者数は、鹿児島地区が最も多く、次いで霧島地区、指宿地区が多くなっている。また、三地区は近年の伸びも大きくなっている。鹿児島市内の街中においても、数年前と比べて多くの外国人を見かけるようになってきた。

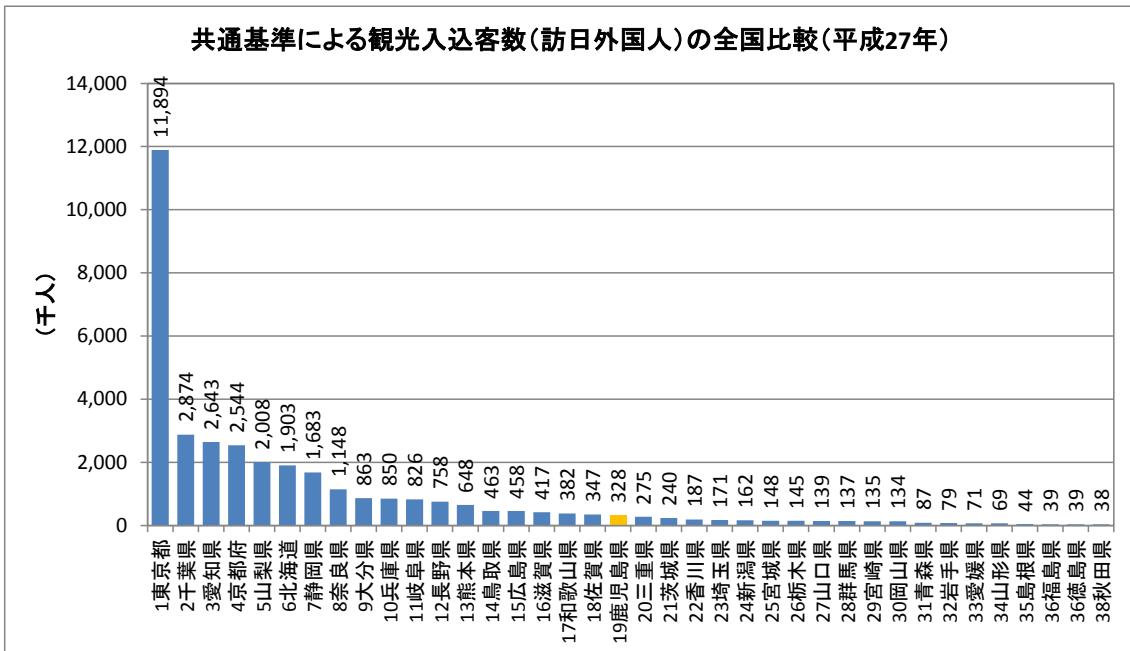
観光庁の共通基準による観光入込客統計で、訪日外国人の観光入込客数をみると、鹿児島県は（集計中等を除く）38都道府県の中で19番目に位置している。

図表 8 地区別外国人延べ宿泊者数の推移



出典：鹿児島県観光交流局観光課「鹿児島県の観光の動向（平成23年～平成27年）」より作成

図表 9 訪日外国人の観光入込客数（実数）の全国比較



※集計済み38都道府県にて整理。神奈川県、富山県、石川県、福井県、高知県、福岡県、長崎県、沖縄県は集計中。大阪府は未導入。

出典：観光庁「共通基準による観光入込客統計（平成27年）」より作成

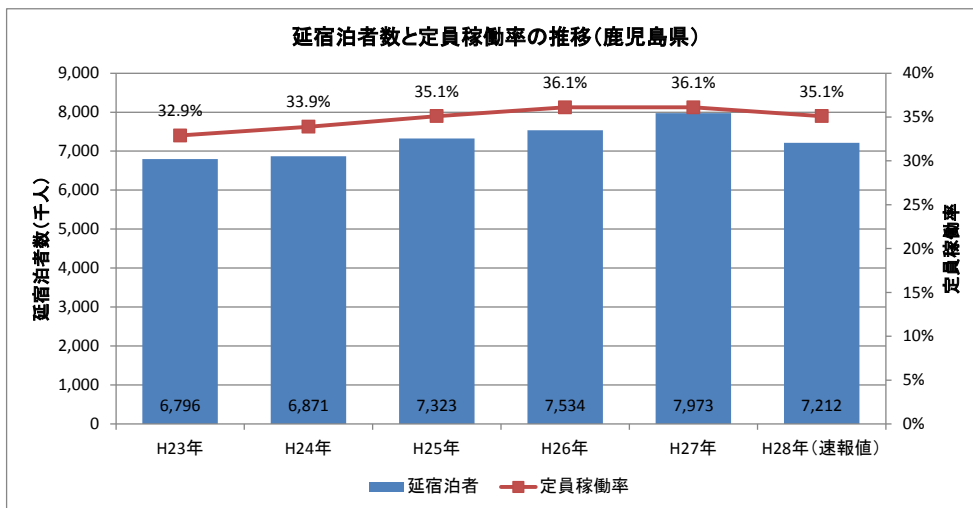
2. 宿泊施設・宿泊客数

(1) 鹿児島県の宿泊客数、稼働率の状況

鹿児島県の延べ宿泊者数は平成23年以降増加しており、平成27年では7,973千人まで伸びてきたが、平成28年は熊本地震の影響もあり7,212千人へと減少している。

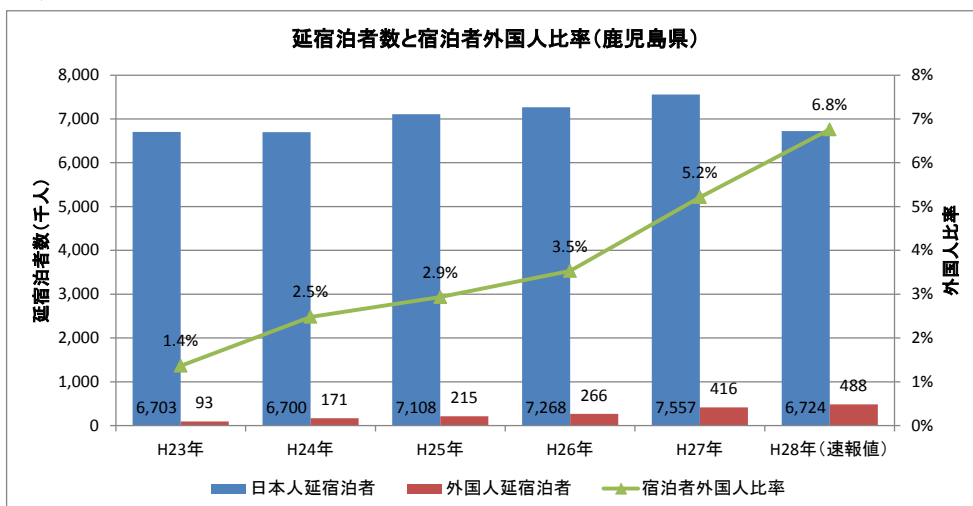
外国人の宿泊者は平成23年以降増加しており、平成28年は488千人と宿泊者に占める外国人比率は6.8%まで上昇している。

図表 10 延べ宿泊者数と定員稼働率の推移



出典：観光庁「宿泊旅行統計調査(平成23年～平成28年)」より作成

図表 11 延べ宿泊者数と宿泊者外国人比率の推移



出典：観光庁「宿泊旅行統計調査(平成23年～平成28年)」より作成

(2) 鹿児島県と九州他県の比較

鹿児島県の年間延べ宿泊者721万人は、九州圏内では福岡県(1,611万人)、長崎県(757万人)、熊本県(723万人)に次いで4番目の宿泊規模となっている。

定員稼働率（施設計）は福岡県が50%を超えるが、その他の六県は35%前後と低い水準に留まっている。

鹿児島県の宿泊施設の収容人数（計算値）は2千万人前後と、長崎県、熊本県と同水準に位置している。施設タイプ別の収容人数では旅館（597万人泊）が最も多くなっている。タイプ別の収容人数で旅館が多い県としては、大分県や熊本県があげられる。

鹿児島県にはビジネスホテルも多く、鹿児島県に宿泊する人の半数以上の人ビジネスホテルに宿泊しており、定員稼働率は63.2%と、福岡県（70.9%）、佐賀県（65.2%）に次いで高い水準となっている。

宿泊客に占める外国人の比率（施設計）6.8%は、近年上昇傾向であるものの九州七県において最も低い値となっている。

図表 12 九州七県の宿泊者数・稼働率等の比較

	延宿泊者数(人/年) H28年(速報値)			定員稼働率	収容人数(人/年)	宿泊者外国人比率
	計	日本人	外国人			
九州計	51,442,960	45,683,560	5,759,400	39.4%	130,565,888	11.2%
うち旅館	9,329,190	8,577,890	751,300	25.0%	37,316,760	8.1%
うちリゾートホテル	6,829,370	5,431,440	1,397,930	40.8%	16,738,652	20.5%
うちビジネスホテル	26,650,100	24,328,790	2,321,310	63.4%	42,034,858	8.7%
うちシティホテル	5,690,920	4,573,150	1,117,770	62.5%	9,105,472	19.6%
福岡県	16,119,980	13,448,540	2,671,440	52.2%	30,881,188	16.6%
うち旅館	817,760	800,000	17,760	20.0%	4,088,800	2.2%
うちリゾートホテル	989,660	601,480	388,180	49.8%	1,987,269	39.2%
うちビジネスホテル	10,364,230	8,952,530	1,411,700	70.9%	14,618,096	13.6%
うちシティホテル	3,189,070	2,400,900	788,170	71.8%	4,441,602	24.7%
佐賀県	2,915,690	2,669,530	246,160	37.1%	7,859,003	8.4%
うち旅館	1,007,930	923,620	84,310	25.4%	3,968,228	8.4%
うちリゾートホテル	385,770	340,280	45,490	43.2%	892,986	11.8%
うちビジネスホテル	1,332,620	1,232,830	99,790	65.2%	2,043,896	7.5%
うちシティホテル	99,760	83,510	16,250	49.5%	201,535	16.3%
長崎県	7,576,880	6,833,610	743,270	36.2%	20,930,608	9.8%
うち旅館	1,147,610	1,073,730	73,880	21.2%	5,413,255	6.4%
うちリゾートホテル	1,444,020	1,230,970	213,050	48.2%	2,995,892	14.8%
うちビジネスホテル	3,351,750	3,055,690	296,060	57.3%	5,849,476	8.8%
うちシティホテル	924,940	797,210	127,730	53.5%	1,728,860	13.8%
熊本県	7,232,380	6,717,770	514,610	34.7%	20,842,594	7.1%
うち旅館	1,969,610	1,869,190	100,420	28.5%	6,910,912	5.1%
うちリゾートホテル	754,870	571,390	183,480	30.8%	2,450,877	24.3%
うちビジネスホテル	3,505,650	3,354,240	151,410	61.3%	5,718,842	4.3%
うちシティホテル	481,300	405,060	76,240	57.3%	839,965	15.8%
大分県	6,776,870	5,930,820	846,050	36.1%	18,772,493	12.5%
うち旅館	2,356,800	1,979,080	377,720	27.0%	8,728,889	16.0%
うちリゾートホテル	1,699,920	1,376,000	323,920	47.9%	3,548,894	19.1%
うちビジネスホテル	2,420,650	2,295,010	125,640	57.8%	4,187,976	5.2%
うちシティホテル	189,710	177,620	12,090	53.1%	357,269	6.4%
宮崎県	3,609,440	3,359,140	250,300	34.1%	10,584,868	6.9%
うち旅館	510,740	497,810	12,930	23.2%	2,201,466	2.5%
うちリゾートホテル	609,340	461,500	147,840	39.2%	1,554,439	24.3%
うちビジネスホテル	1,998,060	1,956,930	41,130	52.9%	3,777,051	2.1%
うちシティホテル	249,140	222,880	26,260	51.3%	485,653	10.5%
鹿児島県	7,211,720	6,724,140	487,580	35.1%	20,546,211	6.8%
うち旅館	1,518,700	1,434,360	84,340	25.4%	5,979,134	5.6%
うちリゾートホテル	945,750	849,730	96,020	28.6%	3,306,818	10.2%
うちビジネスホテル	3,677,200	3,481,640	195,560	63.2%	5,818,354	5.3%
うちシティホテル	556,940	485,910	71,030	52.9%	1,052,817	12.8%

※日本人宿泊者は、延べ宿泊者-外国人宿泊者の計算値

※収容人数は、宿泊者数÷定員稼働率の計算値

※各県等の計は、区分不詳、簡易宿所、会社・団体の宿泊所を含み4施設タイプの合計とは一致しない

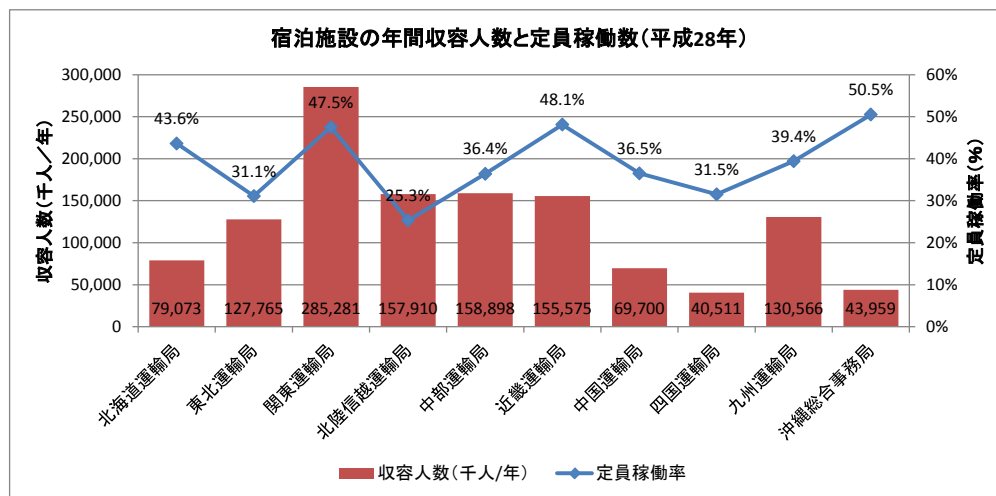
出典：観光庁「宿泊旅行統計調査（平成28年速報値）」より作成

(3) 九州と他地域の比較

九州地方の定員稼働率(39.4%)は、沖縄(50.5%)、近畿(48.1%)、関東(47.5%)、北海道(43.6%)に次いで5番目に位置している。最も定員稼働率の低い地域は、北陸信越で25.3%となっている。

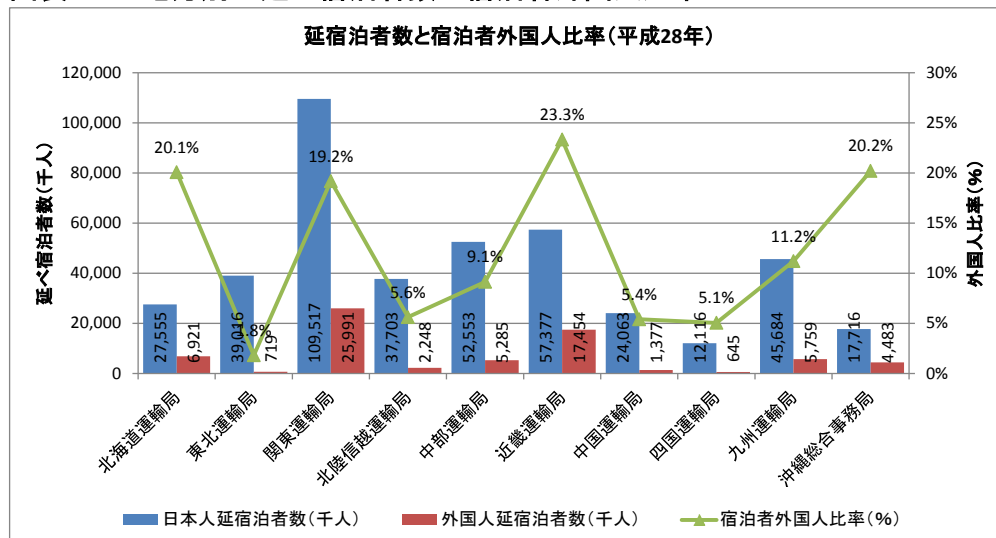
九州地方の宿泊者に占める外国人の比率(11.2%)は、近畿(23.3%)、沖縄(20.2%)、北海道(20.1%)、関東(19.2%)に次いで5番目に位置している。最も外国人の比率が低い地域は、東北で1.8%となっている。

図表 13 地方別の宿泊施設の収容人数と定員稼働率



出典：観光庁「宿泊旅行統計調査(平成28年速報値)」より作成

図表 14 地方別の延べ宿泊者数と宿泊者外国人比率



出典：観光庁「宿泊旅行統計調査(平成28年速報値)」より作成

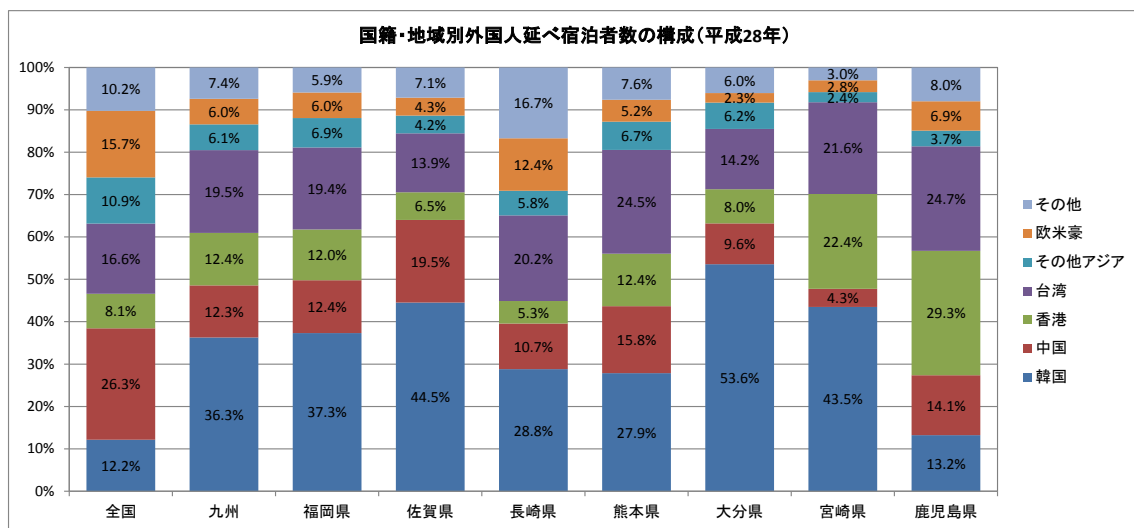
(4) 国籍・地位別の外国人宿泊客の状況

近年増加傾向にある外国人観光客に関して、国籍・地域別の宿泊者の構成をみると、鹿児島県は国際線定期航路のある香港、台湾、中国、韓国が全体の8割を占めている。

香港からは香港航空に加えて、平成28年にLCCの香港エクスプレスが就航したこともあり、平成27年から平成28年にかけて大幅に増加している。

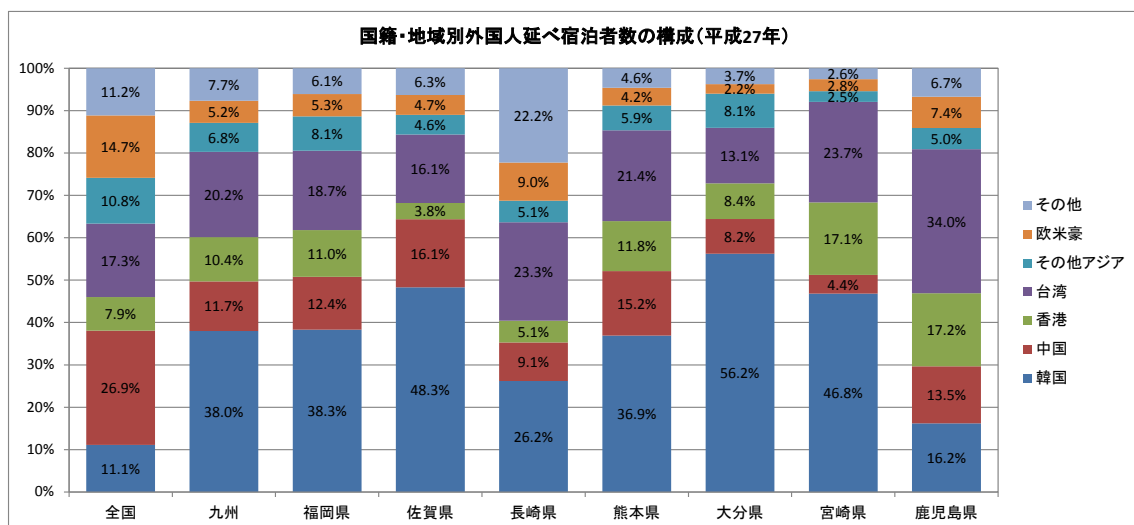
比較的長期間旅行される欧米系の宿泊者についてみると、鹿児島県は6.9%（外国人宿泊者に占める欧米豪の比率）と、九州地方では長崎県（12.4%）に次いで高い構成となっている。欧米系の訪日観光客は旅行消費単価も高めの傾向がみられる。

図表 15 国籍・地域別外国人宿泊者の構成（平成28年）



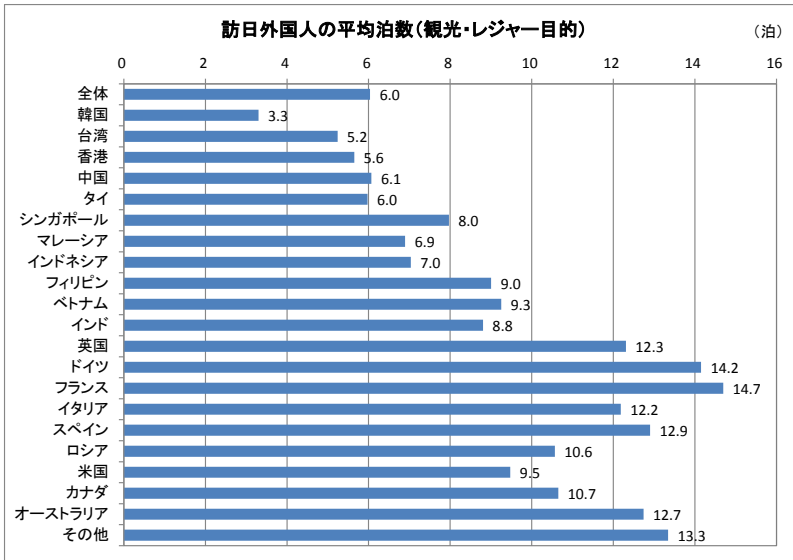
出典：観光庁「宿泊旅行統計調査（平成28年速報値）」より作成

図表 16 国籍・地域別外国人宿泊者の構成（平成27年）



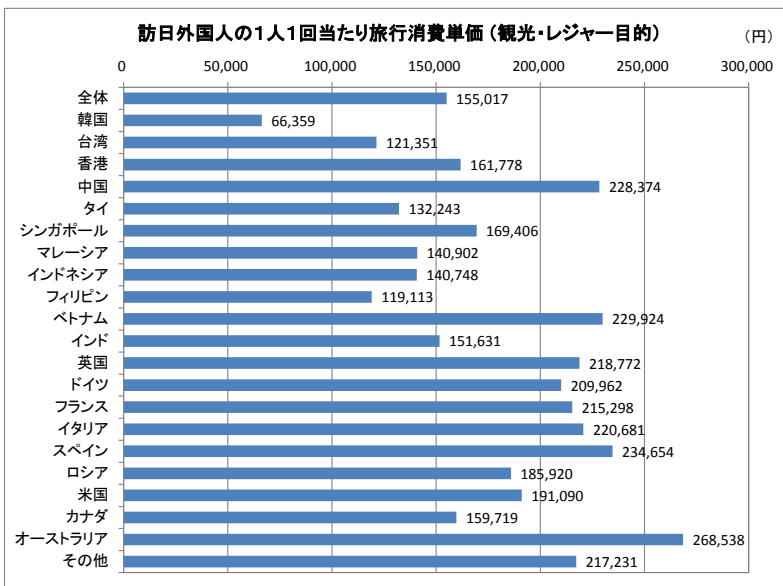
出典：観光庁「宿泊旅行統計調査（平成27年）」より作成

図表 17 訪日外国人の平均泊数



出典：観光庁「訪日外国人消費動向調査（平成 28 年）」より作成

図表 18 訪日外国人の旅行消費単価



出典：観光庁「訪日外国人消費動向調査（平成 28 年）」より作成

(5) 宿泊施設の課題など

本件調査のヒアリングにより、宿泊施設の抱える課題が明らかとなった。

鹿児島県内の多くの宿泊施設では、スタッフ採用が厳しい状況にあり、スタッフ不足で部屋が売れない（予約が取れない）等、売り上げが左右される状況となっている。

また、人材確保同様に耐震改修への対応についても課題とする宿泊施設も多い。

【人材確保に関する意見等（事業者ヒアリングより一部抜粋）】

- 若手の供給が期待できない環境下で、60代・70代の高齢層も含めて活用を検討していく必要がある。海外からの技能実習制度は、旅館は適用できない。独自で入国審査等をクリアしなければならないがハードルが高い。
- 鹿児島は採用が難しくなっている。鹿児島の高校は就職率が99.8%と高い。絶対数が減少する中で、変則勤務の宿泊業は人気がない。
- 採用が大変で、スタッフ不足で部屋を売れないことも考えられる。
- 奄美大島には大学がない。専門学校も一校のみしかない。高校は4校あるが、卒業すると90%以上は島から出る。島に戻りたくても仕事がない（公務員しかない）。
- 専門学校の観光科や、大学のサテライトなど、学校や学科の誘致が必要。奄美ならではの学科の設置が必要でないか。

平成25年11月に改正施行された「建築物の耐震改修に関する法律」により、昭和56年以前の旧耐震基準で建てられた大規模なホテル等に耐震診断が義務付けられ、都道府県などから結果が公表される。

ホテル・旅館は、不特定多数の者が利用する大規模施設として「階数3以上かつ床面積の合計5,000㎡以上」の建物が耐震改修促進法における規制対象となる。

事業者ヒアリングであがった主な意見は下記の通り。

【耐震対応『対応済み』の意見（事業者ヒアリングより一部抜粋）】

- 修学旅行を受け入れる場合は、特に耐震対応が（保護者・学校から）求められる。
- 全館休館と耐震改修を終えた。単館経営ではなくグループ企業だったので対応出来た（グループ経営でないと費用負担は難しいのではないか）。

【耐震対応『対応予定・検討中』の意見（事業者ヒアリングより一部抜粋）】

- 耐震対応は当然必要で、診断や設計は進めているが、来年の大河ドラマなどの大型イベントが終わるまで着工は難しい（公表されるのは厳しい）。工期を分割して営業しながらでも相当の減収が想定される。
- 2020年のオリンピックまでは資材確保も難しく、費用負担も大きい。
- 数年かけて耐震改修を実施し、客室部分はオリンピック以降。バンケット等を先行して実施すると公表している宿泊施設もある。

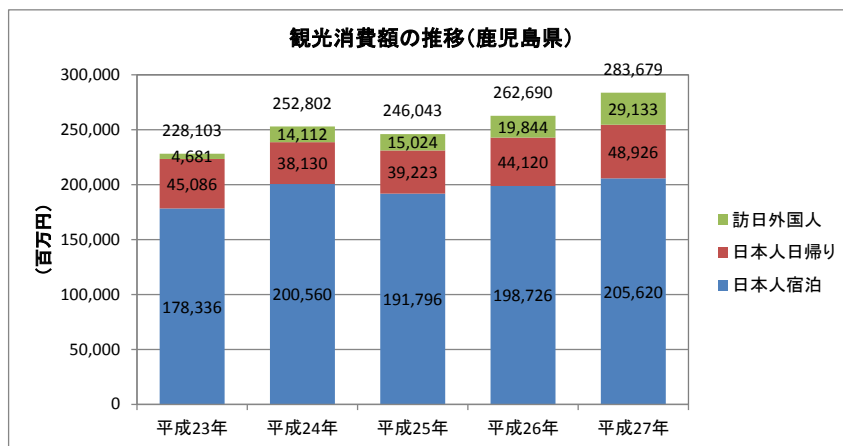
3. 観光消費額

鹿児島県における観光消費額は近年増加傾向にあり、平成27年では283,679百万円となっている。日本人の宿泊客による消費が約7割、日本人の日帰り客による消費が約2割を占める。

訪日外国人による消費は大きく伸びており、平成27年では29,133百万円と1割を超える水準にまで増加している。

平成27年の観光消費単価（旅行者が1回の旅行で鹿児島県内で消費した金額）は、訪日外国人が88,820円と最も高く、日本人の宿泊客は31,532円、日本人の日帰り客は4,563円となっている。

図表 19 観光消費額の推移（鹿児島県）



出典：鹿児島県観光交流局観光課「鹿児島県の観光の動向（平成27年）」より作成

図表 20 観光消費単価（鹿児島県）

		観光消費額単価(円)
日本人	宿泊	31,532
	日帰り	4,563
訪日外国人		88,820

出典：鹿児島県観光交流局観光課「鹿児島県の観光の動向（平成27年）」より

4. 人気の観光資源


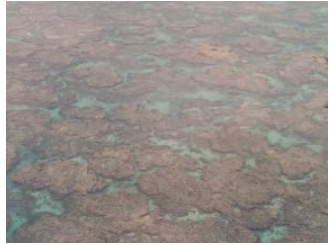
本調査の対象地域（鹿児島市・霧島・指宿・屋久島・奄美大島）における代表的な観光資源や地域の特徴は下記の通り。

図表 21 主要な観光資源

地区	主要な観光資源・特徴
鹿児島市	<p>【桜島】 錦江湾に位置する活火山で、鹿児島を代表する観光資源である。噴煙を上げる桜島の姿は非常に迫力がある。 地元の人には普段の光景であるが、大きな噴火は報道等による風評リスクも有する。</p>  <p>【仙巖園】 薩摩藩主島津斉彬が取り組んだ製鉄・造船・ガラス製造などの集成館事業の拠点で、錦江湾・桜島が眺められる広大な庭園や反射炉跡、水力発電用ダム跡などを見学できる。 隣接する尚古集成館では、展示物や映像により集成館事業が紹介されている。 明治日本の産業革命遺産として平成27年に世界文化遺産登録された。</p> 
霧島	<p>【霧島温泉郷】 新緑、紅葉などの高原レジャーと湯けむりを上げる温泉郷を楽しめる観光地。新しいホテルの計画もある。 県内では鹿児島地区に次いで観光客の多い地区で、隣接する宮崎県からの観光客も多い。</p> 

出典：関係者ヒアリング、事業者ホームページ等より作成

図表 22 主要な観光資源（続き）

地区	主要な観光資源・特徴	
指宿	<p>鹿児島県の中でも人気のある「砂蒸し温泉」で有名な温泉地。鹿児島市内から近く、日帰り客（鹿児島市内に宿泊）も多い。観光列車「指宿のたまたま箱」も人気がある。</p> <p>指宿からは大隅半島への高速船、フェリーが就航しており、近年人気の「雄川の滝（南大隅町）」と指宿温泉泊の組合せも可能。</p>	
屋久島	<p>標高 1,936m の宮之浦岳はじめ島内の 9 割は森林で、冷温帯から亜熱帯の植物が分布する島。平成 5 年に世界自然遺産に登録された。</p> <p>往復に 10 時間を要する「縄文杉」や「白谷雲水峡」などに人気があるが、手軽な 30 分程度の散策コースなども整備されている。</p> <p>ビーチもありマリンスポーツも可能。</p>	
奄美大島	<p>平成 29 年 3 月に国立公園に指定され、更に世界遺産登録を目指している奄美群島の中心的な島である。</p> <p>海が非常にきれいでダイビングなどのマリレジャーの人気の高いが、マングローブ原生林や大島紬の体験なども人気がある。</p>	

出典：関係者ヒアリング、事業者ホームページ等より作成

各地区の事業者ヒアリングであがった主な意見を以下に整理する。

【鹿児島県広域に関するヒアリングコメント】

- 鹿児島は南北 600km と広い県域で、高低差も大きく、日本の縮図ともいえる。屋久島、奄美など自然も豊富にある。離島資源の活用も重要と考える。
- 鹿児島県は食材・農産が充実している（牛・豚・鳥・魚）。志布志の鱧は、殆どが京都に行っている素材県である（六次産業化が出来ていない県ともいえる）。
- 鹿児島空港は全国 9 位と利用者数の多い空港である。鹿児島空港には平成 24 年に LCC のピーチが就航し、平成 25 年にはジェットスターが就航した。更に奄美空港には平成 26 年にバニラエア成田便、平成 29 年にバニラエア関西便が就航するなど、LCC の新規就航も多い。LCC 就航により観光客も増えている。
- 観光旅行に加えスポーツ合宿にも注力し、スポーツ団体を取り込んでいく。

【鹿児島県広域（外国人客）に関するヒアリングコメント】

- インバウンドがゴールデンルートから九州にも流れてきている印象がある。PM2.5の影響もあり「肺を洗う」と田舎（指宿など）が人気。
- 鹿児島の「素朴さ」が、台北・上海・香港などの都市部に評価されている。「鹿児島」の認知度はまだまだ低いが、若い人などには認知度が上がってきている。

【鹿児島地区に関するヒアリングコメント】

- 平成 27 年の地区別宿泊者では鹿児島地区が 38%と最も多い。
- 鹿児島の観光地は桜島と仙巖園。後は日本人であれば水族館・動物園、知覧の特攻基地。
- 良いコンテンツが多いものの、観光客に優しくない街。鹿児島中央駅もバス停が分かりにくい。
- 鹿児島は郷土愛が良い所。でも知っている人もいれば知らない人もいる。もう少し高めていけないかと考えている。
- ストーリー（歴史的背景等）の説明が不足しているように感じる。スタッフの説明能力を高めるため、研修を開催している。
- 鹿児島には伝統行事が残っている。ただし地元の人が気付いていない。自分たちが価値を知る必要がある。
- 子供たちに歴史を勉強してもらい、地域に誇りをもってもらう。正しい歴史、いかに価値あるものかを伝えていく事が求められる。

【霧島地区に関するヒアリングコメント】

- 霧島はナショナルパークとして 8 つの国立公園の一つに指定され、8 公園で 1 千万人を呼び込むための補助金も投入される。大手ホテルが休館する一方で、高級旅館・ホテル進出の話もあり、霧島地区は伸び代のある地域である。
- 湯煙がみられるのは、霧島、別府、草津くらい。白濁の湯は魅力的で、女性客をターゲットとしていく。乳白色の硫黄泉は魅力的で、鹿児島や宮崎、熊本（南部）からも来る。
- 行ってみたい温泉は指宿が上位にランクインするが、行って良かった温泉は霧島が上位に位置する。国立公園内ということも好評価。
- えびの高原や霧島神宮が人気。ゴールデンウィークや正月には渋滞が発生する。
- 霧島地区にはピーク時期は 100 万人近い宿泊があったが現在は年間 50 万人。
- 新燃岳噴火の前は歓楽街もあったが、噴火による客数減少から店舗が国分の方に下りて行った。今は夜開いている店は少ない。

【指宿地区に関するヒアリングコメント】

- 「指宿なのはなマラソン」は37回目目で1万4~5千人集まるイベント。「砂蒸し会館」「玉手箱温泉」も人気がある。
- 指宿と霧島がセットの旅行が多い。指宿と屋久島の組み合わせもある。
- 南大隅町の「雄川の滝」は良い観光素材であるが、大隅には温泉が少ない。指宿から高速船で20分程度で行けるので組み合わせていく。良さを伝えられるよう、スタッフにも現地を見させることが必要である。
- 去年は地震で落ち込んだが、今年は戻っており地震前の水準を見込んでいる。
- 滞在型にするには、朝早くか夜の魅力が必要だが、指宿の居酒屋は夜遅くは開いていない。花火などスポット的なイベントはあるが、恒常的なものはない。指宿は滞在目的を作らないと厳しい。地域で考えていかななくてはならない。
- 指宿地域へはレンタカー移動が多い印象。列車「指宿のたまて箱」でも移動でき、砂風呂に入って鹿児島市内泊が多い（指宿に泊まらなくなった）。
- 鹿児島から大隅・南薩への道路整備は遅れている。鹿児島～指宿間が一般道のみで渋滞が発生している。一方で「道路が良くなると観光は落ちる（鹿児島市内に泊まる）」という意見もある。

【屋久島地区に関するヒアリングコメント】

- 屋久島は一周100kmの島で島内移動にも時間がかかる。人気の縄文杉は10時間の本格的なコースとなるため、屋久島入りして泊まり、朝から山へ、下山して泊まって帰る2泊パターンが多い。同じ宿に2泊する事が多いが、宿を変える人もいる。
- 白谷雲水峡は、有名な「苔むす森」まで行く長めのコースは往復5時間程度かかるが、短めのコース設計も多くある。ヤクスギランドには最短30分のコースもある。
- インバウンドは東京や福岡・鹿児島本土ほどの勢いは無いが、指宿港からバス2台（60名位）の台湾人が来島するなど、インバウンド比率は増加している。
- 「屋久島だけでなく、種子島（宇宙センター）へ」というニーズも有る。
- 屋久島空港にはプロペラ機しか就航していない。屋久島空港滑走路の延伸を是非とも早く実現させてもらいたい。ただし、180人乗ジェットが毎日就航するとなると年5万泊と、屋久島だけの受入は困難（宿泊施設、レンタカーなど）で、種子島・屋久島間の船も使った可能性を検討していく。



（屋久島空港にて）

【奄美大島地区に関するヒアリングコメント】

- ダイビングやシュノーケリング、大島紬（泥染め）などの体験が人気となっている。瀬戸内町はまぐろの養殖量日本一の町で、修学旅行で見学に来る。ダイクマのカツオも三枚おろし、生簀で的一本釣りなど、体験が人気となっている。
- バニラエア成田便のLCC就航から3年、更に関西便も就航し、最近ではプラタモリやボンビーガールなど、マスコミにも多く取り上げられ、奄美大島がメジャーになってきた（奄美って鹿児島だったのだと分かってもらえてきた）。
- 世界自然遺産登録の話題に上がり、欧米系の人達も来るようになった。龍郷にはシンガポール資本のコテージタイプの宿泊施設が出来る予定。10数棟の規模だが、富裕層向けの施設となる。ハイエンドが集まれば、地域のイメージ向上にも貢献する。世界自然遺産登録で更に多くの観光客が訪れると考えられ、宿泊施設についてもハイエンド・ミドル・ロー向けなど多様な選択肢を提供していくことが必要。



(建築中のコテージ)

- 奄美大島にはホテルは数えるくらいしかない。名瀬地区で宿泊キャパは2,000人、全島で3,500人程度（ホテル、旅館、民宿などを合計して）。港部分を開発（埋め立て造成）しており、ホテル用地も計画されている。



(名瀬港の開発用地)

5. 交通アクセス

広域から鹿児島県へのアクセス手段として、飛行機、鉄道、そして離島周遊を想定した船舶の状況を整理する。

(1) 飛行機によるアクセス

鹿児島県内には鹿児島空港・種子島空港・屋久島空港・奄美空港・喜界空港・徳之島空港・沖永良部空港・与論空港の8つの空港がある。各空港の滑走路および運用時間は下記の通り。

図表 23 鹿児島県内の空港一覧

名称	設置管理者	滑走路	運用時間
鹿児島空港	国土交通省	3,000m×45mLA-1	7時00分～22時00分(15時間)
種子島空港	鹿児島県	2,000m×45mLA-2	8時30分～18時30分(10時間)
屋久島空港	鹿児島県	1,500m×45mLA-4	8時30分～18時30分(10時間)
奄美空港	鹿児島県	2,000m×45mLA-12	8時00分～19時30分(11.5時間)
喜界空港	鹿児島県	1,200m×30mLA-4	8時30分～18時30分(10時間)【4月1日～9月30日】 8時30分～17時30分(9時間)【10月1日～3月31日】
徳之島空港	鹿児島県	2,000m×45mLA-2	8時30分～18時30分(10時間)
沖永良部空港	鹿児島県	1,350m×45mLA-4	8時30分～18時30分(10時間)【4月1日～9月30日】 8時30分～17時30分(9時間)【10月1日～3月31日】
与論空港	鹿児島県	1,200m×30mLA-4	8時30分～18時30分(10時間)【4月1日～9月30日】 8時30分～17時30分(9時間)【10月1日～3月31日】

出典：鹿児島県ホームページより作成

鹿児島空港には東京・大阪・中部など大都市と結ぶ路線をはじめ、屋久島、奄美、沖縄など、計17路線が就航している。成田空港、関西空港からはLCCが就航している。

奄美空港には11路線が就航し、鹿児島空港同様に成田空港、関西空港からはLCCが就航している。世界自然遺産登録されている屋久島と世界自然遺産登録を目指す奄美大島との間を結ぶ直行便は現時点では就航していない。

図表 24 鹿児島空港の国内定期路線 (※平成29年7月ダイヤにて整理)

	航空会社	便数/日	備考
鹿児島—成田	ジェットスター	2～3便	曜日により異なる
鹿児島—東京	日本航空、全日空、ソラシドエア、スカイマーク	23便	
鹿児島—静岡	フジドリームエアラインズ	1便	
鹿児島—中部	全日空、ジェットスター	5～6便	曜日により異なる
鹿児島—大阪	日本航空、全日空	13便	
鹿児島—関西	ピーチ	2便	
鹿児島—神戸	スカイマーク	2便	
鹿児島—松山	日本エアコミューター	1便	
鹿児島—福岡	日本エアコミューター	1便	
鹿児島—種子島	日本エアコミューター	3便	
鹿児島—屋久島	日本エアコミューター	5便	
鹿児島—奄美	日本エアコミューター	7便	
鹿児島—喜界島	日本エアコミューター	2便	
鹿児島—沖永良部	日本エアコミューター	3便	
鹿児島—与論	日本エアコミューター	1便	
鹿児島—徳之島	日本エアコミューター	4便	
鹿児島—那覇	全日空、ソラシドエア	2便	

出典：鹿児島空港、鹿児島県、各航空会社ホームページ等より作成

図表 25 奄美空港・屋久島空港の国内定期路線 (※平成 29 年 7 月ダイヤにて整理)

	航空会社	便数/日	備考
奄美—東京	日本航空	1便	
奄美—成田	バニラエア	1便	
奄美—大阪	日本航空	1便	
奄美—関西	バニラエア	1便	
奄美—福岡	日本エアコミューター	1便	
奄美—鹿児島	日本エアコミューター	7便	
奄美—喜界島	日本エアコミューター	3便	
奄美—徳之島	日本エアコミューター	2便	
奄美—沖永良部	日本エアコミューター	0~1便	日により異なる
奄美—与論	日本エアコミューター	0~1便	日により異なる
奄美—那覇	琉球エアコミューター	1便	
屋久島—大阪	日本エアコミューター	1便	
屋久島—福岡	日本エアコミューター	1便	
屋久島—鹿児島	日本エアコミューター	5便	

出典：鹿児島空港、鹿児島県、各航空会社ホームページ等より作成

鹿児島県内空港への国内線到着人数（平成 27 年）は、鹿児島空港（2,394 千人）が最も多く、次いで奄美空港（309 千人）となっている。

鹿児島空港への到着は羽田空港発（1,124 千人）が最も多く、次いで大阪空港発（328 千人）、中部空港発（194 千人）、関西空港発（167 千人）の順。

奄美空港への到着は鹿児島空港発（111 千人）が最も多く、次いで成田空港発（52 千人）、大阪空港発（41 千人）、羽田空港発（33 千人）となっている。

図表 26 鹿児島県内空港への旅客到着人数（国内定期路線）

（平成27年）

（単位：人）

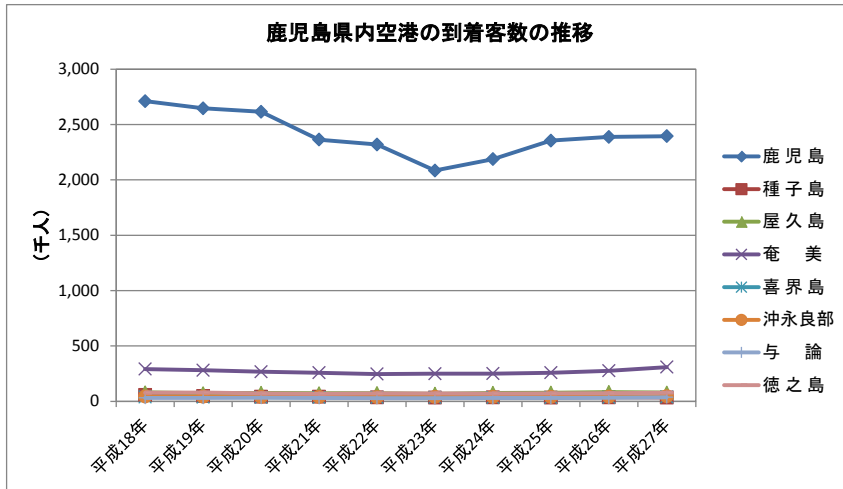
着空港 発空港	鹿児島	種子島	屋久島	奄美	喜界島	沖永良部	与論	徳之島	着空港 発空港
成田	86,583			52,425					成田
羽田	1,124,637			33,199					羽田
静岡	12,558								静岡
中部	194,787								中部
大阪	328,395	1,419	18,051	41,892					大阪
関西	167,012								関西
神戸	40,760								神戸
松山	6,406								松山
福岡	12,786		10,766	19,154					福岡
鹿児島		33,091	50,598	111,600	16,567	37,528	15,396	64,992	鹿児島
種子島	32,140								種子島
屋久島	50,869								屋久島
奄美	114,140				22,337	5,023	3,205	13,251	奄美
喜界島	16,929			20,832					喜界島
沖永良部	39,079			3,957			4,077		沖永良部
与論	15,050			4,200		3,428			与論
徳之島	64,909			14,604					徳之島
那覇	87,519			7,739			14,617		那覇
合計	2,394,559	34,510	79,415	309,602	38,904	45,979	37,295	78,243	合計

出典：国土交通省「航空輸送統計年報（平成 27 年）」より作成

奄美空港への到着客は近年増加傾向にある。バニラエアは平成 26 年の成田-奄美便就航に加え、平成 29 年 3 月に関西-奄美便を就航させ、観光客の取り込みに大きく貢献している。バニラエアの就航により「若い観光客が増えた」という意見も多く聞かれた。

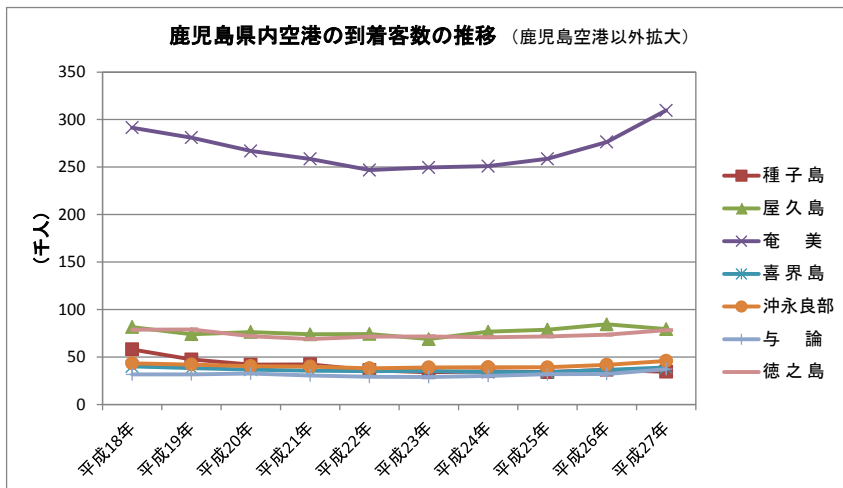
奄美空港では、ターミナルビルの混雑緩和に向けた増改築工事が行われており、情報発信スペースの設置が予定されるなど、利便性の向上が期待される。

図表 27 鹿児島県内空港の到着客数の推移



出典：国土交通省「航空輸送統計年報（平成18年～平成27年）」より作成

図表 28 鹿児島県内空港の到着客数の推移（鹿児島空港以外拡大）



出典：国土交通省「航空輸送統計年報（平成18年～平成27年）」より作成

鹿児島空港の国際線はソウル、上海、台北、香港の4路線あり、香港からはLCCを含め2社が就航している。平成28年の香港エクスプレス（LCC）の就航により、香港からの個人旅行客が増加しているという声が聞かれる。

図表 29 鹿児島空港の国際線航路

	航空会社	便数/週	備考
鹿児島-上海	中国東方航空	2便	
鹿児島-ソウル	大韓航空	3便	
鹿児島-台北	チャイナエアライン	5便	
鹿児島-香港	香港航空、香港エクスプレス	10便	

出典：鹿児島空港ホームページ等より作成

(参考) 図表 30 鹿児島県内空港の国内定期路線の運航回数・旅客状況など

(平成27年暦年計)

区間	運航回数	旅 客			計算値	
		旅客数	座席数	座席利用率(%)	平均座席数 (座席数÷運行回数)	日便数 (運航回数÷365)
東京—鹿児島	8,317	1,124,637	1,878,665	59.9	225.9	22.8
鹿児島—東京	8,313	1,119,970	1,868,602	59.9	224.8	22.8
東京—奄美	362	33,199	59,730	55.6	165.0	1.0
奄美—東京	361	33,584	59,565	56.4	165.0	1.0
成田—鹿児島	632	86,583	113,760	76.1	180.0	1.7
鹿児島—成田	626	90,058	112,680	79.9	180.0	1.7
成田—奄美	364	52,425	65,520	80.0	180.0	1.0
奄美—成田	364	52,915	65,520	80.8	180.0	1.0
大阪—鹿児島	4,765	328,395	541,372	60.7	113.6	13.1
鹿児島—大阪	4,753	327,051	547,903	59.7	115.3	13.0
大阪—種子島	42	1,419	3,108	45.7	74.0	0.1
種子島—大阪	42	1,496	3,108	48.1	74.0	0.1
大阪—屋久島	357	18,051	26,418	68.3	74.0	1.0
屋久島—大阪	353	17,099	26,122	65.5	74.0	1.0
大阪—奄美	405	41,892	66,825	62.7	165.0	1.1
奄美—大阪	404	41,089	66,660	61.6	165.0	1.1
関西—鹿児島	1,084	167,012	195,120	85.6	180.0	3.0
鹿児島—関西	1,083	168,678	194,940	86.5	180.0	3.0
静岡—鹿児島	244	12,558	19,984	62.8	81.9	0.7
鹿児島—静岡	244	12,055	19,984	60.3	81.9	0.7
中部—鹿児島	2,115	194,787	297,034	65.6	140.4	5.8
鹿児島—中部	2,115	193,652	297,222	65.2	140.5	5.8
神戸—鹿児島	427	40,760	75,579	53.9	177.0	1.2
鹿児島—神戸	423	41,198	74,871	55.0	177.0	1.2
福岡—屋久島	351	10,766	25,974	41.4	74.0	1.0
屋久島—福岡	348	10,329	25,752	40.1	74.0	1.0
福岡—奄美	416	19,154	30,784	62.2	74.0	1.1
奄美—福岡	419	18,578	31,006	59.9	74.0	1.1
鹿児島—松山	378	6,682	13,608	49.1	36.0	1.0
松山—鹿児島	378	6,406	13,608	47.1	36.0	1.0
鹿児島—福岡	730	13,951	26,280	53.1	36.0	2.0
福岡—鹿児島	724	12,786	26,102	49.0	36.1	2.0
鹿児島—種子島	1,220	33,091	53,724	61.6	44.0	3.3
種子島—鹿児島	1,218	32,140	53,652	59.9	44.0	3.3
鹿児島—屋久島	1,631	50,598	109,214	46.3	67.0	4.5
屋久島—鹿児島	1,629	50,869	108,956	46.7	66.9	4.5
鹿児島—奄美	2,744	111,600	188,692	59.1	68.8	7.5
奄美—鹿児島	2,736	114,140	188,252	60.6	68.8	7.5
鹿児島—喜界島	740	16,567	24,929	66.5	33.7	2.0
喜界島—鹿児島	735	16,929	25,085	67.5	34.1	2.0
鹿児島—徳之島	1,461	64,992	107,960	60.2	73.9	4.0
徳之島—鹿児島	1,461	64,909	107,886	60.2	73.8	4.0
鹿児島—沖永良部	1,073	37,528	66,518	56.4	62.0	2.9
沖永良部—鹿児島	1,071	39,079	64,796	60.3	60.5	2.9
鹿児島—与論	362	15,396	26,636	57.8	73.6	1.0
与論—鹿児島	362	15,050	24,168	62.3	66.8	1.0
鹿児島—那覇	808	88,897	136,456	65.1	168.9	2.2
那覇—鹿児島	805	87,519	135,942	64.4	168.9	2.2
奄美—喜界島	1,070	22,337	38,520	58.0	36.0	2.9
喜界島—奄美	1,068	20,832	38,448	54.2	36.0	2.9
奄美—徳之島	711	13,251	25,596	51.8	36.0	1.9
徳之島—奄美	711	14,604	25,596	57.1	36.0	1.9
奄美—沖永良部	203	5,023	7,308	68.7	36.0	0.6
沖永良部—奄美	156	3,957	5,492	72.1	35.2	0.4
奄美—与論	154	3,205	5,544	57.8	36.0	0.4
与論—奄美	201	4,200	6,516	64.5	32.4	0.6
奄美—那覇	351	7,790	14,228	54.8	40.5	1.0
那覇—奄美	351	7,739	14,228	54.4	40.5	1.0
与論—沖永良部	155	3,428	4,660	73.6	30.1	0.4
沖永良部—与論	200	4,077	7,121	57.3	35.6	0.5

出典：国土交通省「航空輸送統計年報（平成27年）」より作成

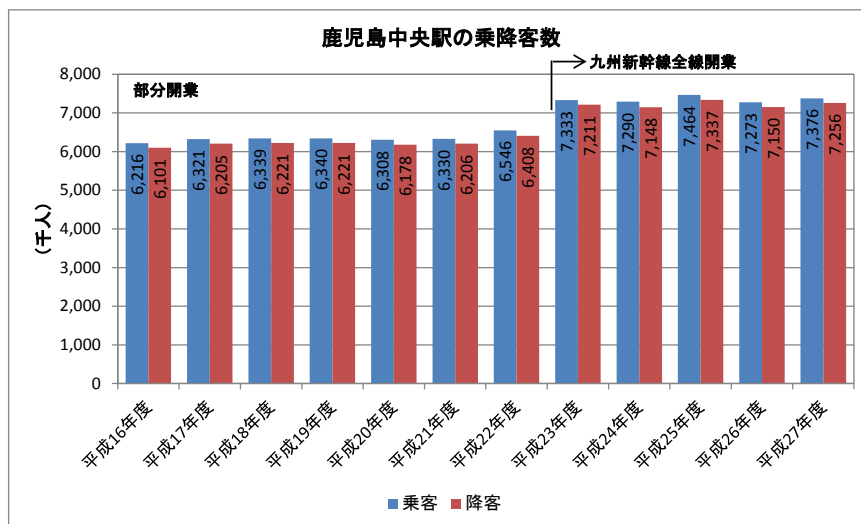
(2) 鉄道によるアクセス

平成 23 年の九州新幹線（鹿児島中央駅～博多駅間）の全線開通により、新幹線でも関西方面から鹿児島へ入ることが可能となった。鹿児島中央駅に到着する新幹線は 1 日約 40 本で、そのうち約 7 割は新大阪駅等から山陽新幹線を経由する直通運転を行っている。

鹿児島中央駅の乗降客数は、新幹線が博多駅まで開通する前は乗降客とも年間 6 百万人台で推移していたが、九州新幹線が全線開業した平成 23 年度は各 80 万人程増加し、以降 7 百万人台で推移している。

事業者ヒアリングによると、九州新幹線は新大阪駅からの臨時列車による修学旅行生など、関西圏からの集客にも貢献している。

図表 31 鹿児島中央駅の乗降客数



出典：鹿児島市ホームページ「統計データ」より作成

(3) 船舶によるアクセス

鹿児島県には種子島、屋久島、奄美大島をはじめとする離島が多く、旅客船（高速船、フェリーなど）による定期航路も多い。

奄美大島の名瀬港は、奄美大島周辺の離島を結ぶハブ港になっており、また鹿児島と沖縄を結ぶフェリーの寄航地になっている。

ただし、奄美大島と鹿児島本土は距離が離れており、フェリーでの移動には半日近い時間を要するため、観光客のフェリーによる移動は少ない様子。

鹿児島港から桜島へは一日 70 往復（24 時間運航）と充実しており、種子島や屋久島へは高速船

【鹿児島～桜島間のフェリー】



が各6便/日就航している。

種子島・屋久島へは指宿からも就航し、指宿への旅行や屋久島など離島周遊にも活用されている。また、指宿からは高速船が、山川漁港からはフェリーが大隅半島へ就航し、大隅半島側への観光送客に貢献している。

【鹿児島～種子・屋久航路の高速船】(指宿港にて)



図表 32 主要な旅客船航路の状況 (鹿児島港、指宿港、山川漁港)

港	航路名	寄港地	船社	船種	便数	船名	総トン数 (GT)	船長 (m)
鹿児島	桜島航路	鹿児島～桜島	鹿児島市	フェリー	70便/日	第二櫻島丸	1,404	59.0
						第十三櫻島丸	731	53.0
						第十五櫻島丸	1,134	56.1
						第十六櫻島丸	997	54.0
						第十八櫻島丸	1,279	56.1
	桜島丸	1,330	57.4					
	垂水航路	鹿児島～垂水(大隅半島)	垂水フェリー(株)	フェリー	29便/日	フェリー第七おおすみ	1,473	77.0
						フェリー第八おおすみ	1,498	77.3
						フェリー第十おおすみ	1,503	77.3
	種子・屋久航路	鹿児島～(指宿)～種子島～屋久島[宮之浦港・安房港]	種子屋久高速船(株)	ジェットfoil	8便/日 (屋久島着6便) (種子島着6便)	トッピー2	163	30.3
						トッピー3	164	30.3
						トッピー7	281	27.4
						ロケット1	165	30.3
						ロケット2	164	30.3
						ロケット3	164	30.3
鹿児島～種子島		コスモライン(株)	フェリー	1便/日	プリンセスわかさ	1,864	88.9	
鹿児島～種子島～屋久島[宮之浦港]	岩崎産業(株)	フェリー	1便/日	はいびすかず	1,798	105.6		
鹿児島～屋久島[宮之浦港]	折田汽船(株)	フェリー	1便/日	フェリー屋久島2	3,392	122.4		
奄美・沖縄航路	鹿児島～奄美大島[名瀬港]～徳之島[亀徳港]～沖永良部島[和泊港]～与論島～沖縄[本部港・那覇港]	マルエーフェリー(株)	フェリー	1便/日	フェリー波之上	8,072	145.0	
		フェリー			フェリーあけぼの	8,083	145.0	
		マリックスライン(株)			クイーンコーラルプラス	5,910	143.3	
クイーンコーラル8	4,945	140.8						
奄美・喜界航路	鹿児島～喜界島～奄美大島[名瀬港・古仁屋港]～徳之島[平土野港]～(沖永良部島[知名港])	奄美海運(株)	フェリー	1便/2日	フェリーあまみ	2,942	112.0	
					フェリー	フェリーきかい	2,500	102.0
三島航路	鹿児島～竹島～硫黄島～黒島[大里港・片泊港]	三島村	フェリー	4便/週	みしま	1,196	89.5	
十島航路	鹿児島～口之島～中之島～諏訪の瀬島～平島～悪石島～小宝島～宝島～奄美大島[名瀬港]	十島村	フェリー	2便/週	フェリーとしま	1,391	85.8	
指宿	種子・屋久航路	鹿児島～指宿～屋久島[宮之浦港]～種子島	種子屋久高速船(株)	ジェットfoil	1便/日	トッピー・ロケット	—	—
山川	大隅航路	指宿～根占(大隅半島)	南南九船舶	高速船	4便/日	高速船なんきゅう10号	—	—
	大隅航路	山川～根占(大隅半島)	南南九船舶	フェリー	4～5便/日	フェリーなんきゅう	136	—

出典：鹿児島県、事業者ホームページ等より作成

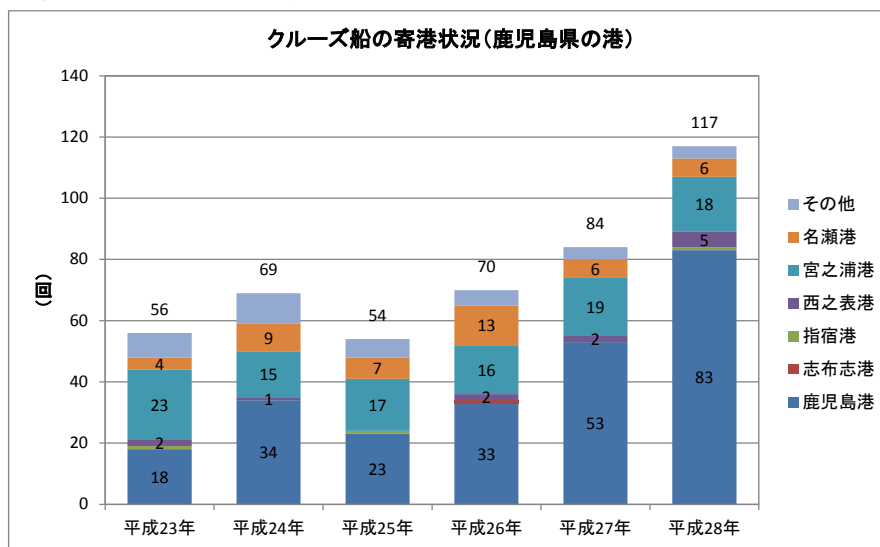
鹿児島県の港にはクルーズ客船も多く寄港している。鹿児島港は九州の港では博多港、長崎港に次ぐ寄港回数となっている。

鹿児島港ではCIQ機能等を有するクルーズターミナルが整備中であり、これまで、最大11万トンまでの対応だが、検討協議の結果、14万トンまでが対応可能となった。

現在、更なる大型船に対応するための検討が進められている。

国においては、「観光先進国」に向けて訪日外国人旅行者数の増加を目標としており、クルーズ船で訪れたお客様がリピーターとして、個人旅行で再来日することも期待される。

図表 33 クルーズ客船の寄港状況



出典：鹿児島県観光交流局観光課「鹿児島県の観光の動向（平成27年）」等より作成

(4) 二次交通の状況について

鹿児島空港から県内への二次交通（バス路線）は、鹿児島市の中心部である鹿児島中央駅までは一日 70 本以上も運行されている。鹿児島中央駅以外へは、鹿児島県内だけでも 10 以上の方面へ運行されており、更には鹿児島県以外の宮崎県、熊本県、福岡県にも運行ルートがある。

鹿児島市中心部までの運行本数は多いが、市中心部以外のルートは一時間 1 本や一日数本と本数が少なく、時間に余裕のない人にとっては使い勝手の良い交通手段とは言えない状況にある。

隣県にある宮崎空港はバス網に加えて JR 宮崎空港線が乗り入れており、また、九州圏に位置する長崎空港はハウステンボス等との高速船によるアクセスも可能となっている。

九州の対岸の四国に位置し道後温泉で有名な松山空港は、リムジンバスに加え一般路線バスも運行されており、松山市駅へは一日 100 便以上の運行本数がある。また、観光名所である道後温泉へ行くバスは一日 50 本近く運行される一方で、松山市中心部以外の県内各地へのバスは空港からは運行されていない。

図表 34 鹿児島空港からのバス路線

県	行き先	本数/日	備考
鹿児島	国分駅・京セラ国分 行	6	
	加治木駅 行	10	平日ダイヤ
	霧島いわさきホテル 行	10	
	妙見温泉・隼人駅 行	5	2本は「立花上」止まり
	国分駅・垂水港 行	4	
	<直行バス>鹿児島中央駅・天文館 経由 市役所前 行	30	
	<直行バス>鹿児島中央駅・天文館 経由 高速船ターミナル 行	16	
	吉野 経由 鹿児島中央駅 行	17	※
	伊敷・鹿児島中央駅 経由 市役所前 行	13	
	鹿児島中央駅 経由 鴨池港 行	11	※
	卸本町中央 行	12	
	川内駅・京セラ第二工場前 行	12	
	志布志 行	4	
	鹿屋・東笠ノ原 行	12	
	湯之元 行	6	
	出水駅・阿久根駅 行	12	
	指宿駅前 経由 山川棧橋 行	8	
	指宿駅前 経由 指宿いわさきホテル 行	2	
	加世田・枕崎 行	8	
	大口 行	4	
熊本	大口 経由 水俣駅前 行	3	
	人吉IC 経由 熊本交通センター 行	8	
宮崎	宮崎駅 行	7	
福岡	博多バスターミナル 行	8	

※「吉野 経由 鹿児島中央駅 行」と「鹿児島中央駅 経由 鴨池港 行」は重複する便あり

出典：各空港、航空会社ホームページ等より作成

図表 35 宮崎空港からのバス路線

県	行き先	本数/日	備考
宮崎	宮交シティ 経由 宮崎駅 行	29	平日ダイヤ
	宮交シティ 行 (上記宮崎駅行便を含む)	38	平日ダイヤ
	シーガイア 行	6	
	西都城駅前バスセンター 行	22	平日ダイヤ
	西都バスセンター	1	平日のみ
	小林バスセンター・小林駅 行	10	平日ダイヤ
	油津・飢肥 行	10	
	延岡駅前バスセンター 行	4	

※上記バス以外に宮崎空港～宮崎駅間の鉄道(12分)あり
出典：各空港、航空会社ホームページ等より作成

図表 36 長崎空港からのバス路線

県	行き先	本数/日	備考
長崎	長崎駅前ターミナル 行	25	
	長崎駅前ターミナル 経由 ココウォーク茂里町 行	45	
	道の尾・住吉 経由 ココウォーク茂里町 行	12	
	諫早駅前 行	20	
	島原港 行	4	
	ハウステンボス・佐世保駅前・佐々バスセンター 行	12	

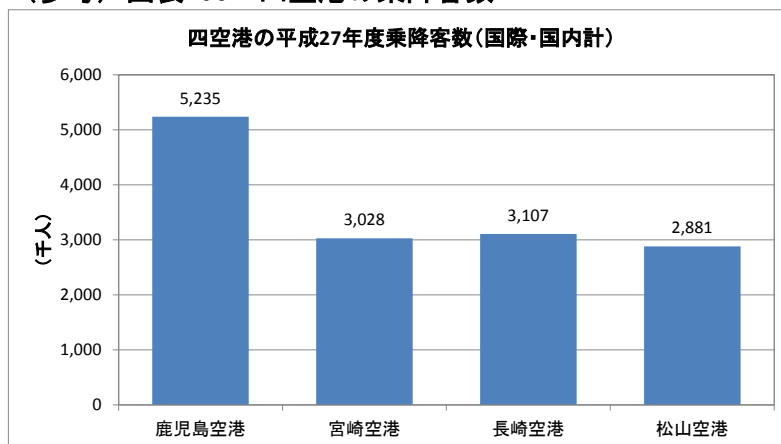
※上記バス以外にハウステンボス、時津行の高速船あり
出典：各空港、航空会社ホームページ等より作成

図表 37 松山空港からのバス路線

県	行き先	本数/日	備考
愛媛	<リムジンバス>JR松山駅・松山市駅 行	36	臨時運行1便を除く
	<一般路線バス>JR松山駅前・松山市駅 行	54	平日ダイヤ
	松山市駅 経由 道後温泉駅 行	18	
	道後温泉駅前・石手寺 経由 湧ヶ淵 行	5	平日ダイヤ
	道後温泉駅前・石手寺 経由 湯の山ニュータウン止まり	21	平日ダイヤ
	道後温泉駅前止まり	5	平日ダイヤ

出典：各空港、航空会社ホームページ等より作成

(参考) 図表 38 四空港の乗降客数



出典：国土交通省ホームページ「空港一覧」より作成

大部分の外国人観光客など自動車を運転できない観光客は、レンタカー以外の手段で鹿児島県内を移動する事となる。鹿児島空港から鹿児島市内（鹿児島中央駅等）まではバスの本数が多いが、鹿児島市内到着後の鹿児島中央駅からの主な交通手段について下表に整理する。

鹿児島市内は、一般の路線バスや路面電車に加え、観光循環バス「まち巡りバス」「カゴシマシティビュー」が運行されるなど、公共交通網は充実している。しかし、路線網が充実している反面、バス乗場が（系統別に）多く分かり難い、観光循環バスの事業者が異なると一日乗車券が共通して使えない等、観光で訪れた（鹿児島に不慣れな）人にとっては、使い勝手が良いとは言えない。

図表 39 鹿児島中央駅から観光地向けの主な二次交通の状況

名称	区間・エリア	運行頻度	事業者
まち巡りバス「あっちゃん号・せごどん号」			
	鹿児島市内	27便/日(約20分間隔)	鹿児島交通
カゴシマシティビュー			
	鹿児島市内	城山・磯コース 17便/日(約30分間隔) ウォーターフロントコース 7便/日	鹿児島市交通局
鹿児島中央駅～桜島棧橋シャトルバス			
	鹿児島中央～桜島棧橋	49往復/日	鹿児島交通
鹿児島市交通局「観光電車」			
	鹿児島市内	2便(土日祝のみ)	鹿児島市交通局
指宿のたまたま箱			
	鹿児島中央～指宿	3往復/日	JR九州
指宿のったりおりたりマイプラン			
	指宿・知覧・南薩地域	路線により異なる(路線バスの組み合わせ)	鹿児島交通
霧島のったりおりたりマイプラン			
	霧島地域	路線により異なる(路線バスの組み合わせ)	鹿児島交通
始良市周遊観光バス「あいらびゅ一号」			
	鹿児島中央駅～始良市内周遊	一日ツアー(第二・第四土曜日ほか)	あいら交通
鹿児島中央-鹿屋直行バス			
	鹿児島中央駅～鹿屋	6往復/日	三州自動車

出典：九州運輸局、各事業者ホームページ等より作成

事業者ヒアリングであがった、鹿児島市内や市外観光スポットまでのバス移動、二次交通等に関する主な意見は下記の通り。

【鹿児島県広域】

- 大隅地方は不便。話題となる場所に大型バスが入れない（停められない）問題もある。パワースポットもいくつもあるが、道路幅が狭く、小型でないと通れない。

【鹿児島地区】

- 市内の観光循環バスは、「カゴシマシティビュー」と「まち巡りバス」の二者が運行しているが、一日乗車券が共通して使えない不便さがある。
- 独自の交通系 IC が導入されているが、JR 系のスイカ、スゴカは使えず、県外の人には分かりにくい。

【霧島地区】

- 空港からのバスは 1 時間に 1 本しかない。霧島神宮駅や温泉駅からは 20 分もかかり、循環バスなどがあると良い。
- 案内表示などインバウンド対応に遅れている。例えば「ようこそ霧島温泉へ」など多言語での案内が、温泉地区の入り口にあっても良いのではないかな。

【指宿地区】

- 県が観光タクシーやレンタカーに 5 千円の補助金を設けている。無理に二次交通（バス）を整備しようとするより、よほど効果的と捉えている。

【屋久島地区】

- 移動手段の確保が課題。島内の移動は、貸切バス、観光ツアーバス、レンタカー、路線バス、タクシーなど。流しのタクシーは宮之浦港や屋久島空港くらいにしかない。路線バスは時間・場所に制約があり、観光利用は少ない。

【奄美大島地区】

- 奄美には貸切バスは 2 社ある。レンタカーは島に 550 台あり増加傾向（新車を投入しており、更に事業者も増加）だが、ゴールデンウィーク、お盆には不足する。
- 名瀬までは空港からバスが 30 分に 1 本出ているが、沖縄の様な周遊バスは無い。路線バスは一社のみで、観光には少なすぎる（分かりにくいという声も聞く）。バス乗車券（1 日～3 日券）があるが、南まで行くにはバス本数が少なく不便。市にも公共バスを考えてもらいたい。

II. 大型イベントの経済効果

1. 大河ドラマ「西郷どん」放映による経済効果試算

平成30年の大河ドラマ「西郷どん」の放映における経済効果を、(株)日本経済研究所の「地域産業連関分析システム JERI-RIOT2011（平成23年鹿児島県産業連関表）」を用いて試算した。

【前提条件の概要】

- ◆ 放映による集客効果 112万人
- ◆ 観光入込客による消費額 260億円
- ◆ 関連事業の事業費 6.9億円
- ◆ 大河ドラマ館整備の事業費 4.7億円

【計算結果の概要】

- 鹿児島県への経済効果 328億円
- 投資額に対する経済効果倍率 1.21倍
- 雇用効果 3,073人

以降、具体的な計算の前提条件、計算過程、計算結果について整理する。

(1) 前提条件

①西郷どん放映による集客効果の前提条件

大河ドラマの舞台となった県において、大河ドラマ放映年の観光客が放映前年に比べてどの程度増加するのか整理した。近年10年間でドラマの舞台となった県における放送年の観光客の増加率は、放映前年に比べて平均で6.24%増加する結果となっている。

図表 40 大河ドラマ放映前後の観光客数の増加率

放映年	番組名	増加率	備考(対象とした県)
平成28年	真田丸	4.0	長野県
平成27年	花燃ゆ	9.4	山口県
平成26年	軍師官兵衛	2.3	兵庫県
平成25年	八重の桜	8.7	福島県
平成24年	平清盛	6.5	広島県
平成23年	江・姫たちの戦国	8.7	滋賀県
平成22年	龍馬伝	2.7	長崎県
平成21年	天地人	5.8	新潟県
平成20年	篤姫	4.8	鹿児島県
平成19年	風林火山	9.6	山梨県

※増加率は原則として主たる舞台となる県における放送年(年度)と前年(年度)で比較した

出典：各県の観光関連統計データより作成

本調査時点で公表されている最新の鹿児島県の観光入込客数（実数）は平成27年の18,073千人であるが、事業者ヒアリングにおいても「最近では熊本地震前の水準まで回復している」とのコメントが大半を占めており、本件試算において基準とする鹿児島県の客数は18,073千人として検討を進める。

大河ドラマ「西郷どん」放映による集客効果は、ドラマの話題性等に関係してくると思われるが、放映半年前の段階においては判断が難しい。そこで、本試算においては直近10年間の大河ドラマ放映翌年の観光客の平均増加率「+6.24%」と同等の効果が期待されるものと想定し、大河ドラマ「西郷どん」放映による集客効果は、18,073千人×6.24%＝『1,128千人』と想定する。

大河ドラマ放映効果により増加する集客構成は、遠方からの観光客や離島観光の増加から宿泊客（日本人宿泊客＋訪日外国人）比率を65%と想定し、増加する客数は『日本人宿泊客713千人』、『日本人日帰り客395千人』、『訪日外国人20千人』として計算する。

図表 41 大河ドラマ放映による集客人数の想定（属性別人数）

		大河ドラマ放映による集客効果	
		集客構成	集客人数
日本人	宿泊	63.2%	713千人
	日帰り	35.0%	395千人
訪日外国人		1.8%	20千人
計		100.0%	1,128千人

大河ドラマ効果により鹿児島県を訪れる観光客が、鹿児島県内で消費する観光消費額は、「鹿児島県の観光の動向（平成27年）」に掲載されている観光消費額単価（日本人宿泊31,532円、日本人日帰り4,563円、訪日外国人88,820円）を用いて計算する。

図表 42 観光消費額単価（図表再掲）

		観光消費額単価(円)
日本人	宿泊	31,532
	日帰り	4,563
訪日外国人		88,820

出典：鹿児島県観光交流局観光課「鹿児島県の観光の動向（平成27年）」より

②西郷どん関連事業による経済効果の前提条件

本調査で対象とした自治体（鹿児島県、鹿児島市、指宿市、霧島市、奄美市、屋久島町）における平成29年度の「西郷どん」「明治維新150周年」に関連する事業予算（事業名称や内容説明に西郷どん、明治維新等のキーワードが含まれるもの）は812百万円となる。

関係者ヒアリングによると、上記予算には後述する大河ドラマ館整備の費用も一部含まれており、本試算においては大河ドラマ館整備費用（120百万円と想定）を除いた692百万円が、キャンペーン等のイベント関連予算であるものとして経済効果を試算する。

図表 43 西郷どん、明治維新150周年に関連する事業（平成29年度当初予算）

自治体	事業名	予算額(千円)
鹿児島県	(1) 明治維新150周年に向けた取組	
	① 明治維新150周年記念プロジェクト推進事業	25,480
	② 明治維新150周年記念薩長土肥4県連携推進事業	3,656
	③ 「明治日本の産業革命遺産」等次世代への継承推進事業	42,486
	(2) 大河ドラマ「西郷どん」をテーマとした特別誘客対策	
	① 大河ドラマ「西郷どん」キャンペーン事業	142,500
	② 国内誘客プロモーション事業	100,000
鹿児島市	③ フィルムコミッション活動支援事業	8,739
	④ 観光サイト魅力アップ事業	8,228
	大河ドラマ「西郷どん」プロジェクト推進事業負担金	139,000
	明治維新150周年事業	16,643
	維新ふるさと館展示更新事業	120,000
	鹿児島観光コンベンション協会活動支援事業	59,496
	鹿児島ふらりまち歩き推進事業補助金	23,902
	明治維新150年“維新のふるさと鹿児島市”PR事業	43,939
指宿市	カゴシマシティビュー事業	11,929
	本物の旅かごしま誘客拡大キャンペーン事業負担金	15,000
	西郷どん観光誘客事業	51,810

出典：鹿児島県、鹿児島市、指宿市の平成29年度予算資料より作成

※霧島市、奄美市、屋久島町の予算資料には「西郷どん」「維新150周年」関連の表記なし

③大河ドラマ館整備による経済効果の前提条件

大河ドラマ館が鹿児島市加治屋町の市民病院跡地に整備されるが、各種報道資料より総事業費を470百万円として、経済効果を試算する。

(2) 計算過程

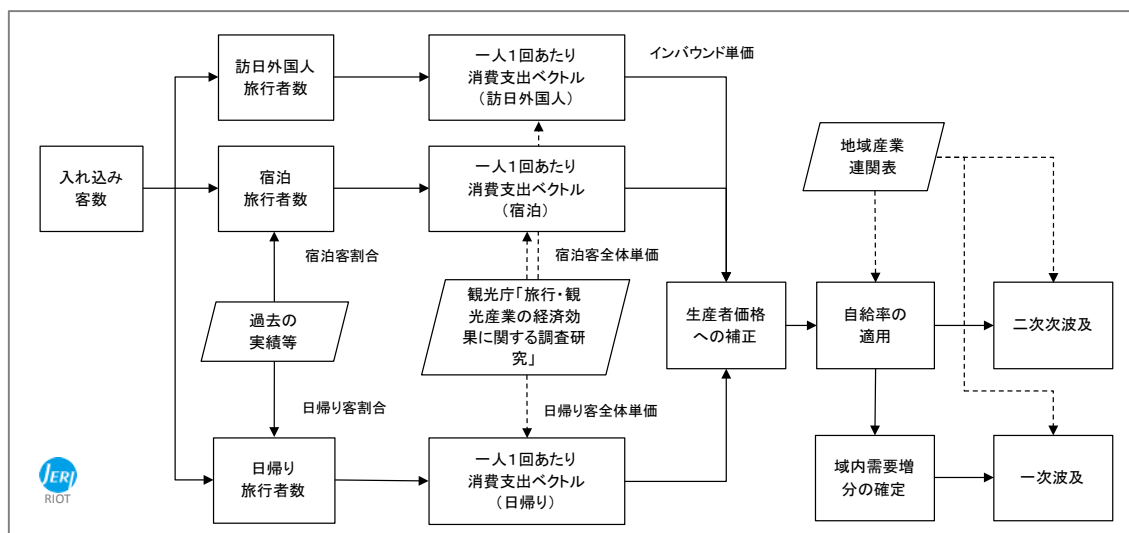
①観光入込客増による経済効果の計算過程

前述の大河ドラマ放映による集客想定人数と、属性別の観光消費単価から地域産業連関分析システム JERI-RIOT2011（平成23年鹿児島県産業連関表、観光庁「旅行・観光産業の経済効果に関する調査報告2015」、鹿児島県平成27年鹿児島県観光統計より JERI 作成）を用いて経済効果を計算する。

図表 44 観光入込客による観光消費額の推計結果

		集客人数	観光消費単価	観光消費額
日本人	宿泊	713千人	31,532円	22,469百万円
	日帰り	395千人	4,563円	1,801百万円
訪日外国人		20千人	88,820円	1,818百万円
計		1,128千人	—	26,088百万円

図表 45 観光入込客増による経済効果の推計フロー



出典：地域産業連関分析システム JERI-RIOT2011

観光入込客の増加による経済効果は、入込客の消費総額 260 億円、地域への経済効果 318 億円、消費額に対する地域の経済効果倍率 1.22 倍、雇用効果 2,988 人と試算された。

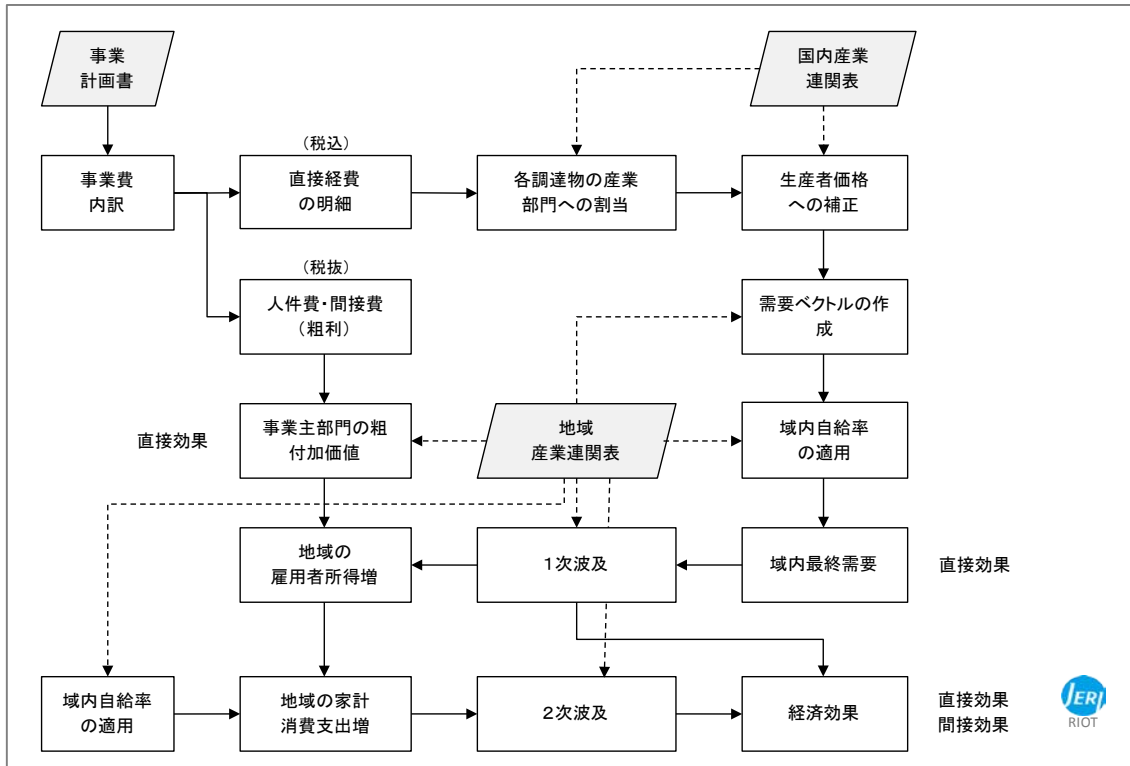
図表 46 観光入込客による経済効果の試算結果

入れ込み客の消費総額	26,088百万円
地域への経済波及効果	31,886百万円
消費額に対する地域の経済波及効果	1.22倍
(参考)雇用効果	2,988人

②西郷どん関連事業による経済効果の計算過程

西郷どん関連の事業予算（692 百万円）による経済効果を、地域産業連関分析システム JERI-RIOT2011（平成 23 年鹿児島県産業連関表より JERI 作成）を用いて計算する。推計フローは下記の通り。

図表 47 西郷どん関連事業による経済効果の推計フロー



出典：地域産業連関分析システム JERI-RIOT2011

イベント等の関連事業による経済効果は、事業消費総額 6.9 億円、地域への経済効果 6.5 億円、事業費総額に対する地域の経済効果倍率 0.94 倍、雇用効果 61 人と試算された。

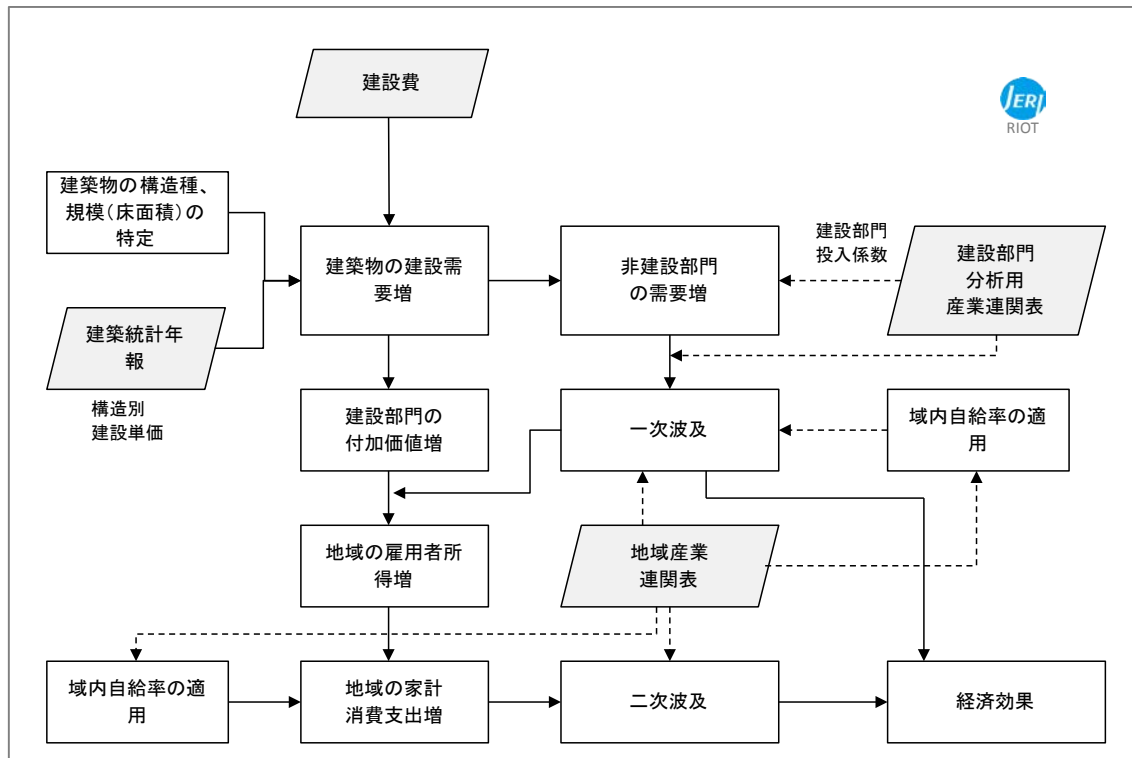
図表 48 イベント等関連事業による経済効果の試算結果

事業費総額	692百万円
地域への経済波及効果	650百万円
投資額に対する地域の経済波及効果	0.94倍
(参考)雇用効果	61人

③大河ドラマ館整備による経済効果の計算過程

大河ドラマ館整備の総事業費（470 百万円）による経済効果を、地域産業連関分析システム JERI-RIOT2011（平成 23 年鹿児島県産業連関表、平成 17 年建設部門産業連関表、平成 27 年建築着工統計より JERI 作成）を用いて計算する。推計フローは下記の通り。

図表 49 大河ドラマ館整備による経済効果の推計フロー



出典：地域産業連関分析システム JERI-RIOT2011

大河ドラマ館整備による経済効果は、事業消費総額 4.7 億円、地域への経済効果 3 億円、事業費総額に対する地域の経済効果倍率 0.66 倍、雇用効果 25 人と試算された。

図表 50 大河ドラマ館整備による経済効果の試算結果

事業費総額	470百万円
地域への経済波及効果	308百万円
投資額に対する地域の経済波及効果	0.66倍
(参考)地域の雇用効果	25人

(3) 経済効果の試算結果（総括）

大河ドラマ「西郷どん」放映に関連する経済効果は、観光入込客の増加による効果、各種プロモーションキャンペーン等の関連事業に関連する効果、大河ドラマ館整備に関する効果がえられる。総投資額（観光消費総額＋事業費総額）は272億円、地域への経済効果は328億円、投資額に対する経済効果倍率は1.21倍、雇用効果は3,073人という試算結果となった。

図表 51 経済効果試算結果の総括

	観光入込客 による効果	関連事業 による効果	大河ドラマ館整備 による効果	計
観光消費総額・事業費総額	26,088百万円	692百万円	470百万円	27,250百万円
地域への経済波及効果	31,886百万円	650百万円	308百万円	32,844百万円
投資額に対する地域の経済波及効果	1.22倍	0.94倍	0.66倍	1.21倍
(参考)雇用効果	2,988人	61人	25人	3,073人

2. 事業者の大型イベントへの認識と対応

鹿児島県は、大河ドラマ「西郷どん」放映による経済効果に加え、更に奄美世界遺産登録、鹿児島国体などの大型イベントで、多くの集客が期待されている。

本件ヒアリングによる観光関連事業者の期待としては、大河ドラマ「西郷どん」放映は鹿児島県内の広域で期待されており、特に鹿児島地区、奄美地区の期待が大きい。

奄美世界遺産登録は、当該地域である奄美大島の期待は非常に大きく、「屋久島との世界自然遺産ツアーの可能性」といった意見もあがる一方で、「現状では奄美大島と屋久島は直行する航路（飛行機・船）が無く、奄美世界遺産登録は屋久島にとっては脅威」といった意見も聞かれた。

鹿児島国体は、競技開催地では期待はあるものの開催期間が短く、大河ドラマや世界遺産登録と比べると効果は限定的といった様相にある。

図表 52 大型イベントの各地区における期待度

イベント・地区	鹿児島市	霧島	指宿	屋久島	奄美大島
西郷どん放映	+++	++	++	+	+++
奄美世界遺産登録	+			-	+++
鹿児島国体	++	+	+		+

※西郷どん放映には明治維新150周年関連のイベント効果を含む

※事業者ヒアリングより期待度を筆者主観により整理

鹿児島市・霧島・指宿・屋久島・奄美大島の地区別に、大型イベントへの期待（当該地域への効果）や具体的な取り組みについて、主なヒアリングコメントを整理する。

【鹿児島地区における大型イベントに関する主なヒアリングコメント】

- 「篤姫」の時は地元では知られていないこともあり、観光関係は盛り上がったが、一般的にはあまり盛り上がらなかった。「西郷どん」の方が地元は盛り上がっているように感じ、高視聴率で県内各地への波及を期待している。
- 講演会などで維新や西郷隆盛の話聞き、鹿児島を売り込む勉強をしている。
- 新幹線開業もあり、「篤姫」の頃よりも効果はあると考えている。インバウンドもあるので、ドラマ後の落ち込みも少ないのではないかと。
- 「篤姫」から8年しか経っていないので、大きな効果を期待出来ないのではないかと（鹿児島に来たことがある人が、また鹿児島に来るのか疑問）。
- 奄美大島は、成田や関西からLCCで行くと安いと、鹿児島からは高い。奄美が世界遺産登録されても、鹿児島本土の恩恵は少ないかもしれない。大阪からも奄美へ直行便がある。石垣5島巡りで那覇を寄らないのと同じかもしれない。

【霧島地区における大型イベントに関する主なヒアリングコメント】

- 「西郷どん」は日当山温泉に滞在していた縁がある。奄美の後、どこでロケが行われるかは気になる。篤姫の際は前年比110%くらい伸びた。
- 「篤姫」の時は霧島よりも指宿が盛り上がったが、「西郷どん」については期待している。東京から鹿児島が意識されるにはきっかけが必要で、大河ドラマはチャンスである。
- 来年1月より「西郷どん」に興味を持った客からの質問が増えると考え、しっかりと対応していくため、社内で勉強会を開催し、知識を深めている。「西郷どん」に向けてPJチームも立ち上げていく。
- 国体は開催種目（剣道）もあり期待しているが、期間が短い。
- 奄美世界遺産登録の効果は、当地は期待できないだろう。

【指宿地区における大型イベントに関する主なヒアリングコメント】

- 「西郷どん」のロケが夏頃から始まる。鹿児島や奄美などNHKも発信していただく。鹿児島県は一番外れの県で「行きたいけど、行けない県」、そこを「行ってみたい県」にするキッカケになると考えている。
- 指宿のウナギ温泉は「西郷さんが逃げ込んできた場所」、また大川港は「奄美へ島流しされた港」など、ドラマのどこで登場するかは地元関係者も気にしている。
- 「篤姫」の時は指宿地域で5%程度伸びた。「西郷どん」についても「篤姫」と同じ5%くらい伸びて欲しいと考えている。現時点では反動減の心配よりも、期待が大きい。
- 国体にも期待している。ゲートボール、バドミントンくらいが開催予定だが、効果があることを期待している。

【屋久島地区における大型イベントに関する主なヒアリングコメント】

- 奄美世界遺産登録は脅威（屋久島が飛ばされるリスク）。奄美世界遺産登録は、（屋久島にとって）マイナスはあってもプラスには働かないだろう。
- 奄美・屋久島間の移動は、一度鹿児島本土を経由する事となる。時間と金に余裕のある人でないと難しい。世界遺産ルート（奄美大島と屋久島の組み合わせ）と言っても船も飛行機も繋がっていない。
- 屋久島にも「西郷どん」の上陸地はあるが、あまり影響しないのではないか。

【奄美地区における大型イベントに関する主なヒアリングコメント】

- バニラが関西から就航し、来年は西郷どん、明治維新 150 周年と大きなイベントの年となる。奄美大島には西郷隆盛のゆかりの地もあり、奄美でのロケも多いのではないかと噂があり期待している。



（奄美大島龍郷町の西郷南洲流謫跡）

- プラタモリ 3 週連続放映は、大河ドラマへの布石という噂もある。ただし、鹿児島側も（本土で）ロケをするよう要望していると聞いており、どの程度奄美ロケとなるかは分からない。
- 奄美世界遺産にも大きく期待している。世界文化遺産と世界自然遺産の両方があるのは鹿児島県のみ。更に奄美が登録される事への期待は大きい。自然遺産ルートなど、クルーズにも期待が持てる。
- 屋久島と奄美大島の世界自然遺産ルートと言っても、両島を直接結ぶ航路（船および飛行機）は繋がっていない。

Ⅲ. 今後の観光振興に向けた期待

鹿児島県は、魅力ある観光資源を多く有しており、大河ドラマ「西郷どん」放映をはじめとする大型イベント効果もあり、多くの観光客が訪れることが期待される。訪れる観光客に、満足してもらい、リピート・推奨から観光客数（観光消費額）を増やしていく必要があると考える。

大河ドラマ「西郷どん」放映による経済効果（328億円）は、増加する観光客を受け入れられる体制が構築されている前提の数値であり、訪れた観光客が満足する対応ができなければ、負のイメージがSNS等で一気に拡散するリスクも有している。

鹿児島県ファンの醸成からプラスの情報発信の連鎖へ、今後の鹿児島県の観光振興に向けての課題と期待について、三つの視点から整理する。

(1) 宿泊施設に関する課題と期待

【現状・課題】

- ✓ 宿泊施設は、鹿児島県全体をみると稼働率は高くなく、キャパシティにも余裕はあるが、地域や施設によっては高稼働で、予約が難しい状況になっている。
- ✓ 奄美大島では宿泊予約が取りにくく、また霧島温泉や屋久島でも繁忙期には満室となる状況もあり、更に多くの観光客を受け入れていくためには受入体制の整備も必要となってくる。
- ✓ 本件ヒアリングにおいて「鹿児島市内でもハイエンド向け宿泊施設が無い」、「（一部の離島では）富裕層に関心を持ってもらえる観光資源は有るものの民宿しかない」といった状況も明らかとなった。
- ✓ 霧島や奄美大島など一部の地域では、高級路線の宿泊施設が建設・計画されるなど新たな動きもみられている。
- ✓ ハイエンド向け施設により富裕層が集まれば、地域のイメージ向上にも貢献する。日本の観光産業の占めるウェイトは高まり、地域や観光産業のイメージが向上する事は、人材確保面にもプラスに作用していくものと考えられる。

【期待】

⇒多様なグレードの宿泊施設の提供により観光客の選択肢を広げ、集客（客層の拡大、人数の増加）につなげていく。多様なニーズの観光客を取り込んでいくためにも、ハイエンド向け宿泊施設をはじめとする多様な宿泊施設の整備を期待したい。

(2) 交通・インフラに関する課題と期待

【現状・課題】

- ✓ 鹿児島市内は、バス路線網は充実しているが、複数のバス事業者が別々の一日券を発行し共通使用できない、ICカードは全国系のSuica等が使えないなど、観光客には分かりにくい状況にある。
- ✓ 鹿児島市以外の地域は、路線バス等の二次交通の利便性が良くない（路線はあっても本数が少ない）。レンタカーや観光バスでの移動では、観光スポットへの道路が狭く、大型バス用の駐車場が無い場所も多い。
- ✓ 本件現地調査では、観光施設の案内が幹線道路には有るが、幹線道路から離れ観光スポットに近付くと案内表示が無くなり、迷う経験を何度かした。
- ✓ 鹿児島本土から離島へは、便数が少ない航路も多い。世界自然遺産の屋久島と奄美大島の二島を直接結ぶ定期航路は無い。

【期待】

⇒県内を快適に観光（移動）してもらえよう、交通機関・インフラ・サイン等について、検討・整備が進んでいく事を期待したい（分かりやすく・便利に）。また、広域周遊に向け離島航路等の検討が進む事も期待したい。

(3) 観光関連従事者に関する課題と期待

【現状・課題】

- ✓ 鹿児島県には良い観光コンテンツが豊富にあるが、鹿児島県民が気付いていない事が多い（当たり前的事と思っている）。地元を紹介するTV番組を見て「地元を知る良い機会となった」という声もある（地元の事を知らない）。
- ✓ 一部の観光関連施設では、歴史・ストーリーの説明力を高めるための社員講習会、大河ドラマ放映により質問が増える事を想定した西郷隆盛に関連する社員勉強会、話題の観光スポットのスタッフ現地視察等の動きもみられる。

【期待】

⇒観光関連の産業に従事する鹿児島県民が中心となり、鹿児島県の魅力を再確認し、積極的に情報発信していく事が必要である。観光客に鹿児島県の魅力をしっかりと伝え、体験してもらい、ファンとなってもらおう。そして、リピーター・知人への紹介・情報発信へとつなげることで、大型イベント後も多くの観光客が訪れる観光の鹿児島県となっていく事を期待したい。

以上

著作権(C)Development Bank of Japan Inc. 2017

本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引等を勧誘するものではありません。本資料は当行が信頼に足ると判断した情報に基づいて作成されていますが、当行はその正確性・確実性を保証するものではありません。

本資料のご利用に際しましては、ご自身のご判断でなされますようお願い致します。本資料は著作物であり、著作権法に基づき保護されています。本資料の全文または一部を転載・複製する際は、著作権者の許諾が必要ですので、当行までご連絡下さい。

著作権法の定めに従い引用・転載・複製する際には、必ず、『出所：日本政策投資銀行』と明記して下さい。